

令和8年度 研修事業案内



※「令和8年度研修事業案内」は、愛知県総合教育センターウェブページの「研修事業」からダウンロードできます。

愛知県総合教育センター



◆◆◆◆ 目 次 ◆◆◆◆

N 研修・講座一覧	1	V eラーニング研修の実施について	26～45
I 基本方針	2	VI スキル・アップ研修の詳細について	46～55
II 申し込みの流れ、受講に当たっての留意事項等	3～5	■名簿等の様式	56～62
III 研修の申し込み		(様式1) 研修・講座対象者・参加者名簿(幼稚園等)	
幼稚園等	6	(様式2) スキル・アップ研修(自由応募制)希望者名簿(幼稚園等)	
小・中・義務教育学校	7	(様式4) スキル・アップ研修(自由応募制)希望者名簿(事務職員)	
高等学校	8	(様式5) 教育研究リーダー養成研修参加者推薦書(小・中・義)	
特別支援学校	9	(様式6) 教育研究リーダー養成研修参加者推薦書(県立)	
留意事項及び入力上の注意	10～14	(様式7) 欠席・遅刻・早退届	
IV 研修・講座一覧		(様式E1) eラーニング研修教材にかかる学校等利用申請書	
1 キャリア・アップ研修	15～20	■参考資料	63～67
2 リーダー研修	21、22	・教育研究リーダー養成研修の概要	
3 スキル・アップ研修	23、24	・中堅教諭等資質向上研修にかかる在職期間の例	
4 事務職員等研修	25	・愛知県総合教育センター案内図(交通案内・周辺案内図)	

◆◆◆◆ 本案内の見方 ◆◆◆◆

この「研修事業案内」には、研修・講座のねらい、期日、会場等が示してあります。
また、研修・講座の受講申し込み方法や対象者、必要な提出書類の各種様式が掲載されています。

キャリア・アップ研修		pp. 15-20
◇初任者 ◇新規採用 養護教諭・栄養教諭 幼稚園等教員	詳細については、当センターウェブページに掲載している各「研修の手引」を御覧ください。 また、所属長宛てに、実施要項も送付します。	
実習教員・寄宿舎指導員	所属長宛てに送付される実施要項等で、詳細を御覧ください。	
◇2年目教員 ◇3年目教員	p. 10で対象者を確認してください。 申し込み完了後、所属長宛てに実施要項を送付します。	
◇中堅教諭【前期】【後期】 ◇幼稚園等中堅教諭	詳細については、当センターウェブページに掲載している「中堅教諭等資質向上研修の手引」を御覧ください。 また、申し込み完了後、所属長宛てに実施要項も送付します。	
◇職務に関する研修	拠点校指導員、担当教員、新任〇〇など、各職務に該当する教員を対象とします。	
リーダー研修		pp. 21-22
	地区または学校ごとに人数や受講者を指定している研修です。研修番号 43、44、45、46 の研修は自由応募制もあります。 申し込み完了後、所属長宛てに実施要項を送付します。	
スキル・アップ研修		pp. 23-24、pp. 46-55
	この研修には自由応募制の研修と、地区または学校ごとに人数を指定している研修があります。本案内を御覧の上、申し込んでください。申し込まれた方には、受講の可否を所属長宛てに6月中旬に通知します。 また、研修番号 54～62 のスキル・アップ研修では、「追加連絡」を教員サポートシステム「研修 My Page」及び「学校ページ」で通知しますので、研修前に確認してください。 なお、参加者には実施要項を改めて送付しませんので、本案内 pp. 46-55 に従って所定の日時・場所へお越しください。	
eラーニング研修		pp. 26-45
	所属校等で受講できます。eラーニング単独講座や、センターでの集合研修の事前若しくは事後に、基礎的知識の理解のために、研修・講座の一部で実施する研修もあります。	
事務職員等研修		p. 25
	ねらいや対象者等が掲載されています。なお、詳細は別途通知します。	
各種様式		pp. 56-62
	参加申し込み及び欠席・遅刻・早退等に関する各種様式が掲載されています。	

※令和8年度の各種様式は、愛知県総合教育センターウェブページ「研修事業」からダウンロードできます。

※研修・講座の受講に当たって、支援や配慮等の必要があれば、下記まで御相談ください。

学校支援研修課スキルアップ研修推進G 電話：0564-83-9153

令和8年度研修・講座一覧

*研修番号1～62に付した★印は、当該研修・講座の一部を「eラーニング研修」によって実施することを示す。

1 キャリア・アップ研修 (42 講座)

- 1★小学校初任者研修
- 2★中学校初任者研修
- 3★高等学校初任者研修
- 4★特別支援学校初任者研修
- 5★新規採用養護教諭研修
- 6★新規採用栄養教諭研修
- 7★県立学校新規採用実習教員・寄宿舎指導員研修
- 8★幼稚園等新規採用教員研修
- 9★小学校2年目教員研修
- 10★中学校2年目教員研修
- 11★高等学校2年目教員研修
- 12★特別支援学校2年目教員研修
- 13★小学校3年目教員研修
- 14★中学校3年目教員研修
- 15★高等学校3年目教員研修
- 16 特別支援学校3年目教員研修
- 17★幼稚園等中堅教諭資質向上研修
- 18★小学校中堅教諭資質向上研修【前期】【後期】
- 19★中学校中堅教諭資質向上研修【前期】【後期】
- 20★高等学校中堅教諭資質向上研修【前期】【後期】
- 21★特別支援学校中堅教諭資質向上研修【前期】【後期】
- 22★中堅養護教諭資質向上研修【前期】【後期】
- 23★中堅栄養教諭資質向上研修【前期】【後期】
- 24 小中学校初任者研修拠点校指導教員研修
- 25 特別支援学校初任者研修拠点校指導教員研修
- 26★特別支援学級担当教員初心者研修
- 27★通級指導担当教員初心者研修
- 28★高等学校実習教員研修
- 29 県立学校新任生徒指導主事研修
- 30★中学校新任進路指導主事研修
- 31★県立学校新任進路指導主事研修
- 32★小中学校新任教務主任研修
- 33★県立学校新任教務主任研修
- 34 産業教育学科主任研修
- 35 特別支援学校部主事研修
- 36 園長等運営管理研修
- 37★小中学校新任教頭研修
- 38★小中学校新任校長研修
- 39★県立学校新任教頭研修
- 40★県立学校新任校長研修
- 41 公立学校の臨時教員等研修
- 42 指導改善研修

2 リーダー研修 (11 講座)

- 43★幼児教育講座
- 44 保育技術講座
- 45★道徳推進講座
- 46★外国人児童生徒等教育講座
- 47 教育研究リーダー養成研修
- 48 県立学校運営講座
- 49 教育相談特別研修
- 50 小中学校社会体験型教員研修
- 51 大学院及び教職大学院派遣研修
- 52 愛知教育大学特別支援教育特別専攻科内地留学研修
- 53 国立特別支援教育総合研究所特別支援教育専門研修

3 スキル・アップ研修 (88 講座)

- 54 海洋環境教育講座
- 55 安全教育実技講座 (小型車両系建設機械運転業務特別教育講習)
- 56 刈払機安全衛生教育講座
- 57 農業技術講座
- 58 特別支援教育講座 (A～E コース)
- 59★児童生徒理解に基づく組織的な教育支援に向けた教育相談講座
- 60 特別支援学校におけるセンター的機能強化講座 (A, Bコース)
- 61★あいちクラスルーム・エバンジェリスト養成研修
- 62 1人1台端末を活用した授業づくり講座

<eラーニング単独講座>

◎ 小学校教科講座

- e01 国語科 e02 社会科 e03 算数科 e04 理科
- e05 音楽科 e06 図画工作科 e07 体育科 e08 家庭科

◎ 中学校教科講座

- e09 国語科 e10 社会科 e11 数学科 e12 理科
- e13 音楽科 e14 美術科 e15 保健体育科 e16 家庭科
- e17 外国語 (英語) 科

◎ 高等学校教科講座

- e18 国語科 e19 地理歴史・公民科 e20・e21 数学科1・2
- e22 理科 e23 外国語 (英語) 科 e24 情報科 e25 看護科

◎ 教科・領域の指導に関する講座

- e26 生活科講座～基礎・基本から考える～
- e27 小学校英語の基礎講座
- e28 理科観察・実験指導基礎講座
- e29 道徳教育講座～考え議論する道徳～
- e30 主権者教育推進講座
- e31 高等学校におけるキャリア教育の進め方講座
- e32 総合的な学習の時間講座～探究の扉を開く～
- e33 総合的な探究の時間講座
- e34 「国際英語」教育の理論と実践講座
- e35 Integrating Language & Content in an English Class
- e36 産業教育における評価の在り方講座
- e37 産業教育における金融経済教育の進め方講座
- e38 教育評価の在り方講座
- e39 オンライン教育の在り方講座
- e40 情報モラル教育講座
- e41 教師のための情報危機管理講座
- e42 カリキュラム・マネジメント講座
- e43 効果を上げる授業研究の在り方講座
- e44 校内研修と授業研究の効果的な進め方講座
- e45 ESD推進講座
- e46 科学的リテラシー育成講座
- e47 明日から使えるアントレプレナーシップ教育講座

◎ 幼児・児童・生徒の理解と支援に関する講座

- e48 愛知の特別支援教育基礎講座
- e49 発達障害の理解と支援講座 (A～E コース)
- e50 視覚障害の理解と支援講座
- e51 聴覚障害の理解と支援講座
- e52 肢体不自由児の理解と支援講座
- e53 病弱児・身体虚弱児の理解と支援講座
- e54 知的障害の理解と支援講座
- e55 特別支援教育における教育課程講座
- e56 児童生徒の強みを生かす教育相談講座
- e57 いじめの組織的な未然防止講座
- e58 不登校支援と予防講座～多様な背景を踏まえた学校での支援と予防～
- e59 不登校児童生徒のこころの理解と支援講座
- e60 不登校の子どもたちを支える保護者への支援講座
- e61 教育相談の心得講座～個別面談に際して～
- e62 組織的な教育相談のための力量向上講座
- e63 「チーム学校」を生かす教育相談体制づくり講座
- e64 性の多様性の理解推進講座
- e65 外国人児童生徒等教育基礎講座～現状と課題～
- e66 通級による指導・支援の在り方講座

◎ その他の講座

- e67 SDGs 理解講座 (A, Bコース)
- e68 学校安全推進講座 (A, Bコース)
- e69 地域学校協働活動推進講座
- e70 社会人としてのマナー講座
- e71 職場のメンタルヘルス講座 (A, Bコース)
- e72 心が軽くなるコミュニケーション講座
- e73 GIGAスクール構想の在り方講座
- e74 OJT推進講座
- e75 学校農園活用講座
- e76 熱中症予防管理講座
- e77 授業におけるICT活用講座
- e78 生成AIに関する基礎講座
- e79 幼児教育と小学校教育の接続に関する講座

4 小中学校事務職員等研修 (8 講座)

- J01 新規採用者研修 J05 現任主査研修
- J02 中堅者前期研修 J06 新任事務長・総括事務長研修
- J03 中堅者後期研修 J07 県立学校用務員研修
- J04 新任主査研修 J08 県立学校図書館関係職員研修

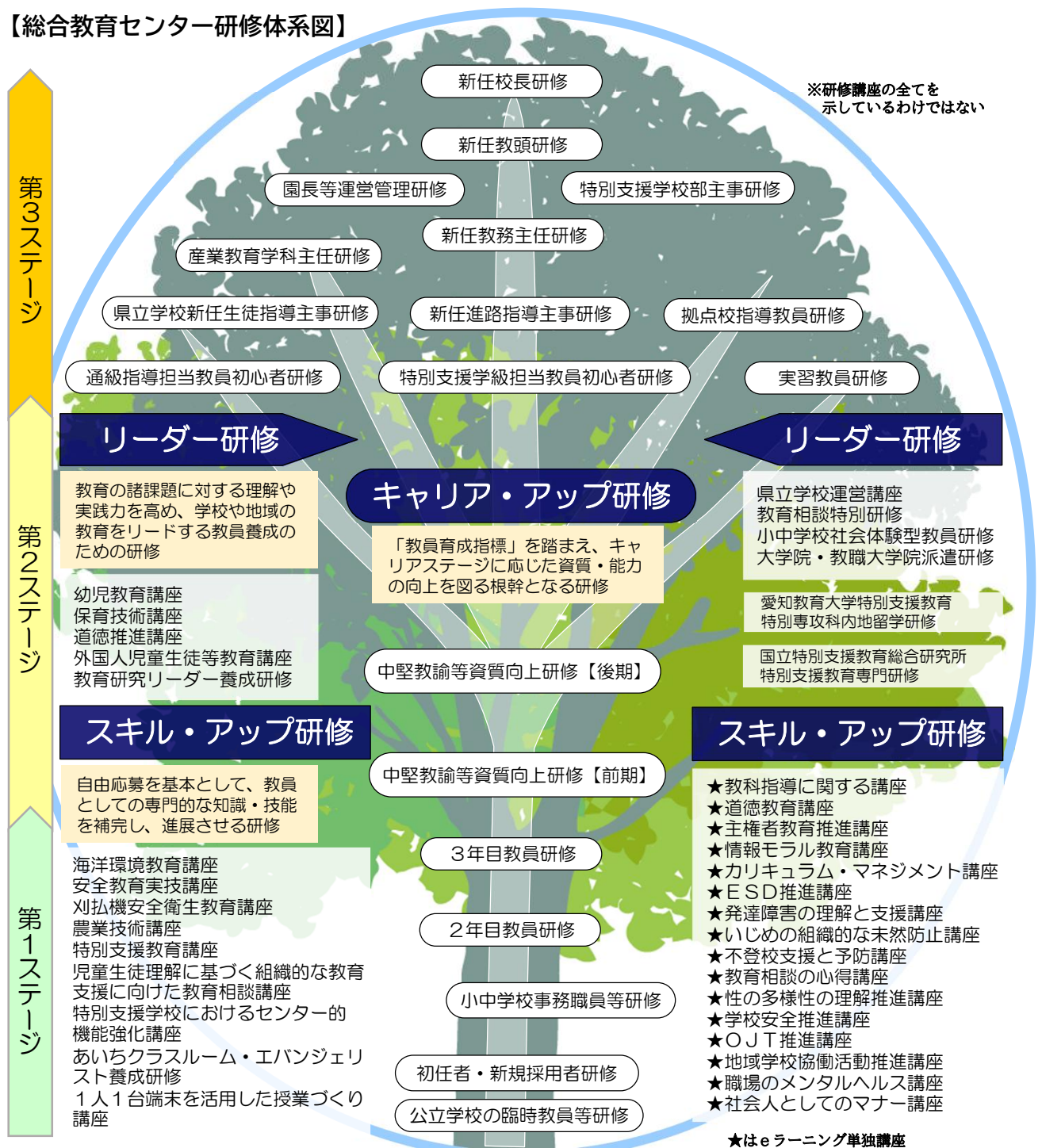
I 基本方針

現在の学校教育には、新しい時代に必要となる資質・能力を子どもたちに育むことが求められています。このような教育を実現するためには、教職員一人一人が学校教育の直接の担い手であるという意識を強くもち、自律的かつ主体的な研修に努め、教職員としての資質・能力をいっそう高めるとともに、学校において研修の成果を同僚と互いに共有するなどして、学校組織全体としての指導力向上を図ることが重要です。

総合教育センターでは、これらのことを踏まえ、初任者から中堅者、管理職まで、教職員のキャリアステージに応じた体系的かつ効果的な研修を実施します。

- <研修事業に関する重点>**
- ①学び続ける教職員を支援し、素養や指導力、マネジメント力など、一人一人の資質・能力の向上及び高め合う教職員集団（組織）の醸成に資すること。
 - ②学校が直面している教育課題の解決や、教育活動の活性化と充実に資すること。
 - ③急速な社会の変化に伴う教育改革の推進に対応すること。
 - ④主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICTの効果的な活用に資すること。

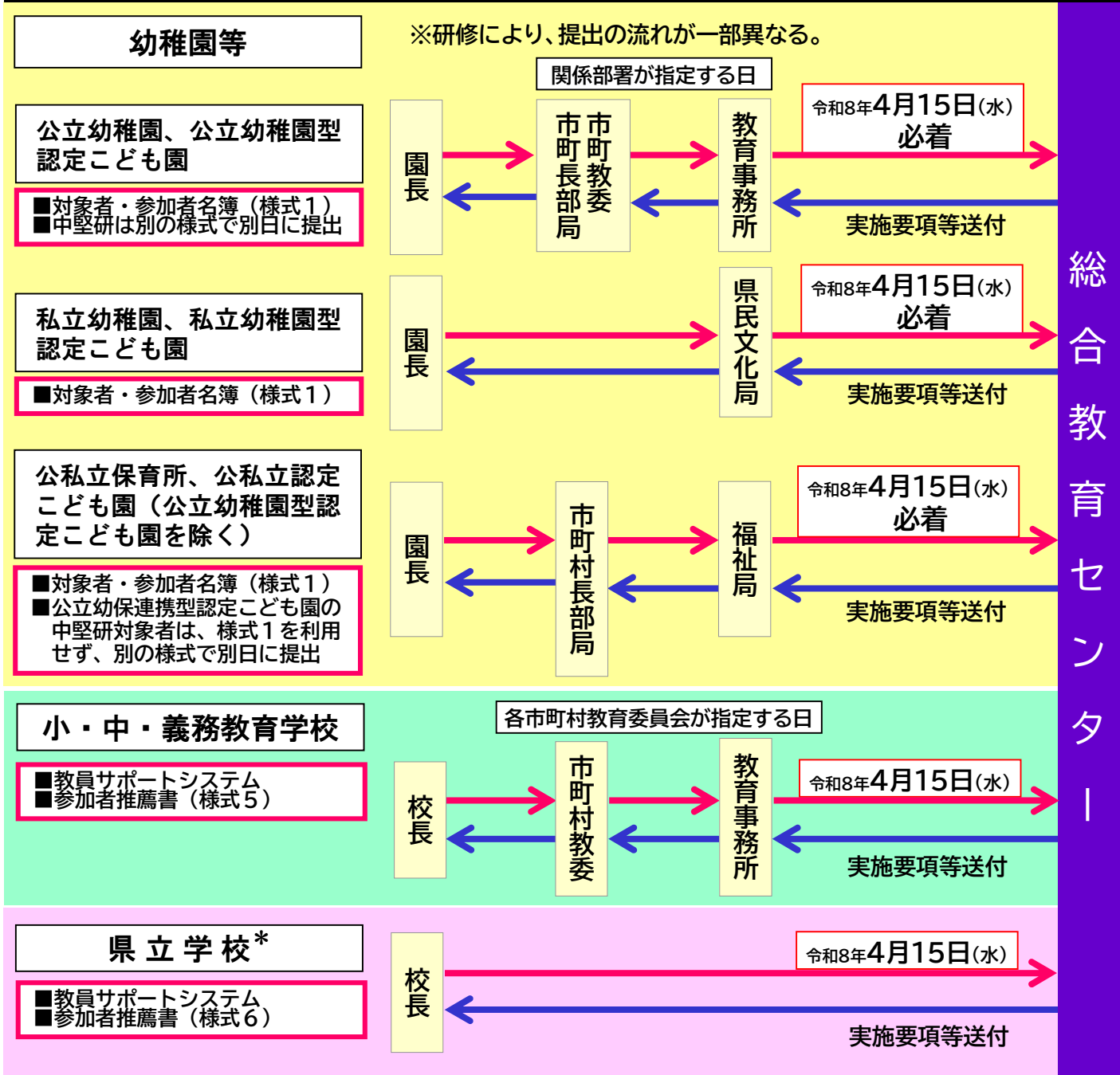
【総合教育センター研修体系図】



Ⅱ 申し込みの流れ、受講に当たっての留意事項等

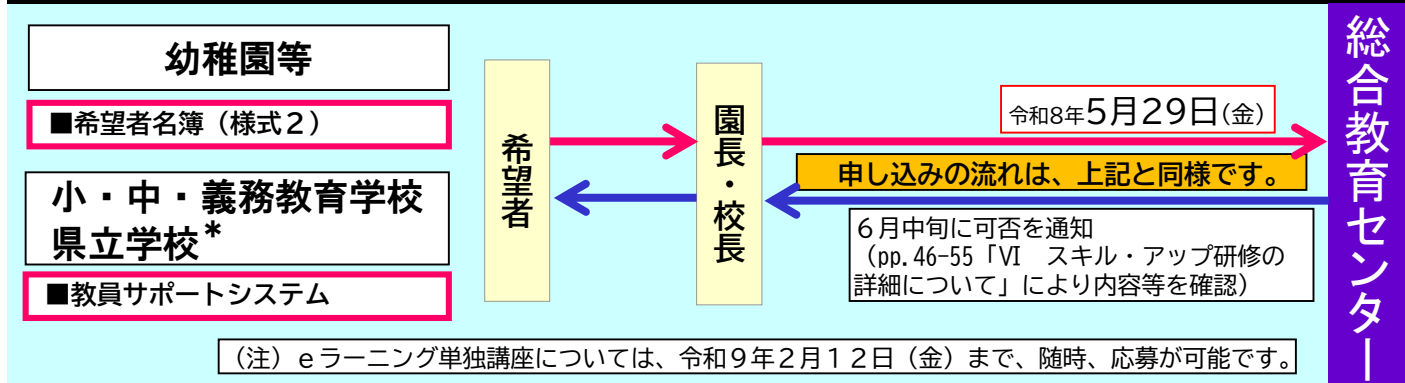
各種様式については、p.56～

キャリア・アップ研修、リーダー研修、スキル・アップ研修(指定分)



総合教育センター

スキル・アップ研修(自由応募制)



総合教育センター

*県立学校は、県立(豊橋市立、瀬戸市立、刈谷市立、豊田市立を含む)の高等学校、特別支援学校、附属中学校及び夜間中学校を指す。

※国立幼稚園、国立小・中学校、国立高等学校、国立特別支援学校の申し込みは、県立学校と同様となる。

◆受講に当たっての留意事項

1 総合教育センター利用上の注意

- ・総合教育センターへ来所の際は、できる限り公共交通機関を利用してください。
- ・講師の都合等により、研修・講座内容、日程等が変更になる場合があります。
- ・研修会場での飲食は、指定された場所をお願いします。研修会場へ昼食等で持ち込んだ物は、各自責任をもって必ず持ち帰ってください。
- ・総合教育センターは敷地内全面禁煙です。御理解と御協力をお願いします。

2 提出課題、様式等の送付について

提出課題、様式等を総合教育センターへ郵送する場合は、封筒の余白に「〇〇研修（講座）〇〇コース▽▽在中」と朱書きしてください。また、教員サポートシステムやメール等による提出を指示する課題もあります。

総合教育センターへ提出課題、様式等を送付する方法

所属アドレス（学校代表アドレス）から送信する。
※個人アドレスから送信しない。

総合教育センター所属アドレス
sogokyoiku-c@pref.aichi.lg.jp

※ただし、学校の所属アドレス（代表アドレス）がない場合は、提出課題、様式等を印刷し、郵送する。

郵送先：〒444-0802 岡崎市美合町字並松1番80

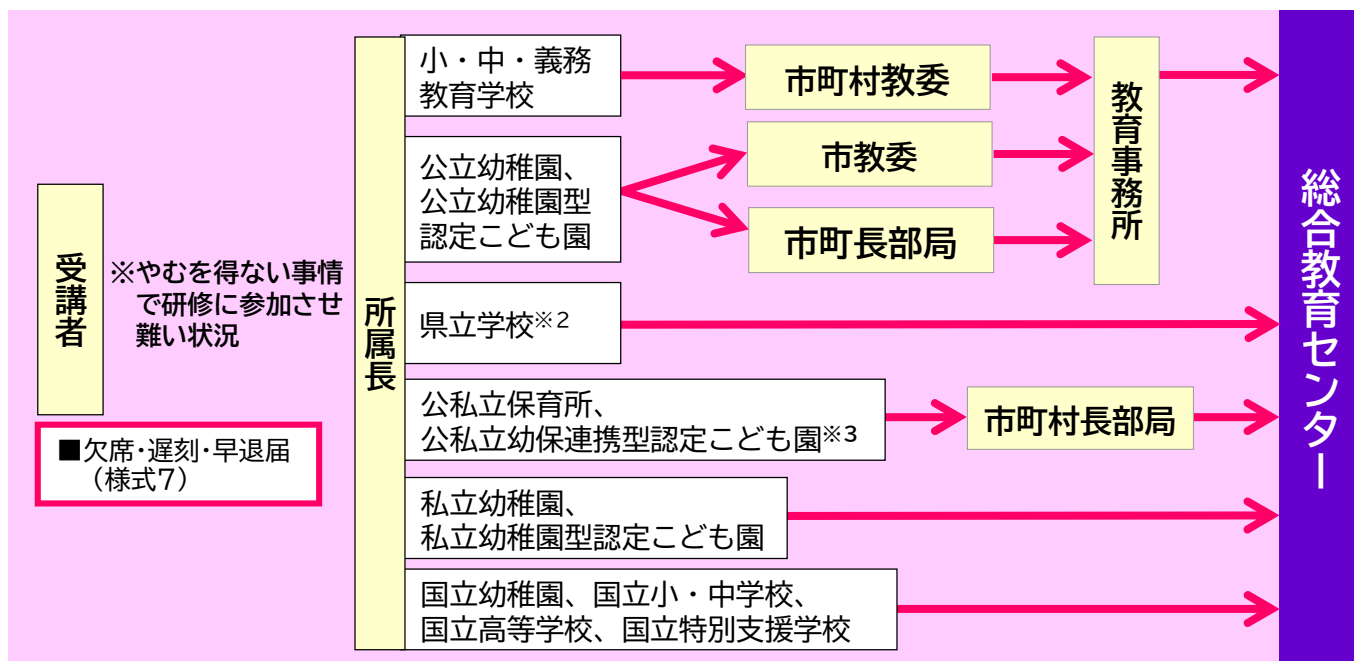
愛知県総合教育センター 学校支援研修課スキルアップ研修推進G

*「〇〇研修（講座）〇〇コース ▽▽在中」と朱書きする。

3 研修・講座欠席等の手続きについて

やむを得ない事情で研修に参加させ難いとき、所属長は下の流れに沿って、総合教育センター所長宛てに欠席・遅刻・早退届（p.61「様式7」、総合教育センターウェブページからダウンロードする）をそれぞれの所属アドレス（代表アドレス）からメールで提出してください。※1

ただし、緊急の場合は、所属長または受講者から直接研修担当者に連絡し、後日、速やかに欠席・遅刻・早退届を提出してください。



※1 件名は、【〇〇研修△月△日××届】とし、総合教育センター所属アドレスへ提出してください。欠席・遅刻・早退届の提出は郵送でも可能です（郵送先は「学校支援研修課スキルアップ研修推進G」）。

※2 県立学校は、県立（豊橋市立、瀬戸市立、刈谷市立、豊田市立を含む）の高等学校、特別支援学校、附属中学校及び夜間中学校を指します。

※3 私立幼保連携型認定こども園勤務の受講者は、一部提出の流れが異なります。

4 警戒レベル4以上の気象警報等が発表された場合における研修事業等の取り扱いについて

- ・当日午前7時の時点において、県内のいずれかの地域に「レベル4危険警報」以上が発表されている場合は、当日の全ての集合研修及びオンライン研修を中止します。また、高等学校・特別支援学校の初任者研修、新規採用養護教諭研修、新規採用栄養教諭研修、幼稚園等新規採用教員研修のeラーニングによる開講行事も同様とします。
- ・「レベル4危険警報」以上がその日のうちに解除された場合も、当日の全ての集合研修及びオンライン研修を中止します。
- ・開催地への移動中に発令された場合も中止とします。なお、引き返すなど安全に関する判断は各々で行ってください。
- ・研修中に発表された場合は、総合教育センターが研修続行の可否について判断します。

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

＜国土交通省発行リーフレットより＞

5 暴風（または暴風雪）特別警報もしくは警報発表時における研修事業等の取り扱いについて

(1) 午前7時までに県内いずれかの地域で警報が発表された場合

当日の研修	その後の警報の推移	当日の研修の取り扱い
ア 全日の日程で計画されていた集合研修	午前7時の時点で県内全ての地域において警報が解除されている場合 午前7時の時点で県内いずれかの地域で警報が継続されている場合	計画どおり実施 中 止
イ 午前だけの日程で計画されていた集合研修	午前7時の時点で県内全ての地域において警報が解除されている場合 午前7時の時点で県内いずれかの地域で警報が継続されている場合	計画どおり実施 中 止
ウ 午後だけの日程で計画されていた集合研修	午前10時30分の時点で県内全ての地域において警報が解除されている場合 午前10時30分の時点で県内いずれかの地域で警報が継続されている場合	計画どおり実施 中 止

(2) 午前7時を過ぎてから県内いずれかの地域で警報が発表された場合

当日の研修	当日の研修の取り扱い
当日の全ての集合研修	中 止

(3) オンライン研修の場合

原則的に警報の有無に関わらず研修を開催します。ただし、参加が困難な場合は、欠席等の手続きを行ってください。

なお、研修番号46「外国人児童生徒等教育講座」の第1日午前の講義のみのオンライン参加者（自由応募）は、(1)、(2)の警報が発表された場合に準ずる。

また、研修番号58「特別支援教育講座（Cコースを除く）」はオンラインのみ実施する（集合で参加予定の受講者もオンラインで参加する）。

6 地震等における研修事業等の取り扱いについて

南海トラフ沿いで異常な現象が観測された際に、気象庁から情報名の後にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」等の形で情報発表されます。キーワードによって、研修の対応が異なります。

[南海トラフ地震臨時情報（キーワード）]

キーワード	研修の取り扱い
ア 調査中	実施 ※計画通り実施する。
イ 巨大地震警戒	中止 ※総合教育センター所長が所属長に研修再開の連絡をするまでの間は中止とする。
ウ 巨大地震注意	実施 ※地震の状況により、研修を中止することとなった場合には、総合教育センター所長が所属長に連絡する。

＜上記4、5、6における留意事項＞

- ・研修事業等の全部または一部を中止した場合の代替措置等については、総合教育センター所長が別に指示します。
- ・受講者は移動等に危険が伴うと判断される場合や公共交通機関が確保できない場合は、管理職等と相談の上で遅刻、欠席等の対応をとってください。
- ・当日の研修の取り扱いについては、変更する場合があります。総合教育センターのウェブページ等で確認してください。

Ⅲ-1 研修の申し込み ～幼稚園等～

◆第1期申し込み◆ 令和8年4月15日（水）締め切り

○研修内容、期日等は pp.15-22 参照

研修番号	研修・講座名	指定	必要書類	申し込み方法
8	幼稚園等新規採用教員研修 ^{*1}			
17	幼稚園等中堅教諭資質向上研修 ^{*1}			
36	園長等運営管理研修	○	様式1 ^{*2}	様式1をメール送信
43	幼児教育講座	○		
44	保育技術講座	○		
45	道徳推進講座	○		

◆第2期申し込み◆（自由応募制研修・講座） 令和8年5月29日（金）締め切り

○研修内容、期日等は pp.23-24 及び pp.46-55 参照

研修番号	研修・講座名	必要書類	申し込み方法
54	海洋環境教育講座	様式2 ^{*2}	様式2をメール送信
56	刈払機安全衛生教育講座		
57	農業技術講座		
58	特別支援教育講座（A～Eコース）		

◆eラーニング単独講座申し込み◆ 令和9年2月12日（金）まで随時受付

研修番号	研修・講座名	必要書類	申し込み方法
e01～e79	pp.31-45 参照	様式2 ^{*2}	様式2をメール送信

※1 研修番号8「幼稚園等新規採用教員研修」、研修番号17「幼稚園等中堅教諭資質向上研修」の公立園受講対象者については、別途申し込み済です。

※2 必要書類は、愛知県総合教育センターのウェブサイト「研修事業」からダウンロードできます。

◇留意事項

研修番号	研修・講座名	留意事項
36	園長等運営管理研修 指定	○以前に参加したことがある者は「在職期間」欄に「有（園長経験年数）」をリストから選択し、参加したことがない者は「初（園長経験年数）」をリストから選択する。 （例）「有（〇年）」、「初（〇年）」
43	幼児教育講座 幼 指定 小・特 自由応募	○在職期間は異動等による園種を問わず、保育経験年数をリストから選択する。 ○令和8年度の協議主題は一つ。 【協議主題1】指導と評価に生かす記録について ・「幼児教育講座分科会」欄に参加する部会は、主題を選択する。 ○司会は備考欄に「司会」と入力する。
45	道徳推進講座 幼 指定・自由応募 小・中・義 指定	主任及び教員を対象とする。 ※自由応募制は、私立幼稚園・公私立こども園の主任及び教諭、保育教諭が対象。
58	特別支援教育講座	○A・B・D・Eの各コースは、希望の参加方法を「センター会場」「オンライン」「どちらでもよい」から選択する（オンラインでの受講は、A・B・Eコースは午前のみ、Dコースは午後のみとする。オンラインでの受講では、同コース内の他の講義や協議は受講できない）。 ※「センター会場」は人数制限あり。「センター会場」での受講ができない場合は、「オンライン」となる（Cコースを除く）。

※研修番号17「幼稚園等中堅教諭資質向上研修」について、p.10「Ⅲ-5 留意事項及び入力上の注意」を参照

Ⅲ-2 研修の申し込み ～小・中・義務教育学校～

pp.10-14「Ⅲ-5 留意事項及び入力上の注意」を参照

◆第1期申し込み◆ 令和8年4月15日（水）締め切り

○研修内容、期日等は pp.15-22 参照

○研修番号1「小学校初任者研修」、2「中学校初任者研修」、5「新規採用養護教諭研修」、6「新規採用栄養教諭研修」については、研修の申し込みは不要です。総合教育センターで教員サポートシステムへの登録を行います。

○研修番号24「小中学校初任者研修拠点校指導教員研修」については、別途送付する様式で希望を取りまします。教員サポートシステムでの研修の申し込みは不要です。

研修番号	研修・講座名	指定	自由応募	教員サポートシステム備考欄への記載
9	小学校2年目教員研修			必要のある受講者のみ
10	中学校2年目教員研修			
13	小学校3年目教員研修			
14	中学校3年目教員研修			
18	小学校中堅教諭資質向上研修 【前期・後期（弾力化を含む）】			必要のある受講者のみ
19	中学校中堅教諭資質向上研修 【前期・後期（弾力化を含む）】			
22	中堅養護教諭資質向上研修 【前期・後期（弾力化を含む）】			
23	中堅栄養教諭資質向上研修 【前期・後期（弾力化を含む）】			
26	特別支援学級担当教員初心者研修			必要のある受講者のみ
27	通級指導担当教員初心者研修			
30	中学校新任進路指導主事研修			
32	小中学校新任教務主任研修			
37	小中学校新任教頭研修			
38	小中学校新任校長研修			
43	幼児教育講座		小学校	
45	道徳推進講座	○		
46	外国人児童生徒等教育講座	○	○	
47	教育研究リーダー養成研修*	○		

※研修番号47「教育研究リーダー養成研修」は、様式5の提出が必要です。様式5は、愛知県総合教育センターのウェブページ「研修事業」からダウンロードできます。必要事項を記入し、各市町村教育委員会が指定する日までにメールで提出してください。

再任用教諭・臨時的任用教員等、氏名リストに表示されない職員については、登録を行った上で申し込み手続きを行います。登録する場合は各学校の研修担当者に依頼してください。なお、通称使用をする場合は、毎年度初めに各学校で変更するとともに、総合教育センターの各研修の担当者へお知らせください。

◆第2期申し込み◆（自由応募制） 令和8年5月29日（金）締め切り

○研修内容、期日等は pp.23-24 及び pp.46-55 参照

研修番号	研修・講座名
54	海洋環境教育講座
56	刈払機安全衛生教育講座
57	農業技術講座
58	特別支援教育講座A～E

研修番号	研修・講座名
59	児童生徒理解に基づく組織的な教育支援に向けた教育相談講座
62	1人1台端末を活用した授業づくり講座

◆eラーニング単独講座申し込み◆ 令和9年2月12日（金）まで随時受付

研修番号	研修・講座名	留意事項
e01～e79	pp.31-45 参照	○総合教育センターにおける「受講許可」については、学校で「受講許可」を行った週の翌週に実施する。

Ⅲ-3 研修の申し込み ～高等学校～

pp.10-14「Ⅲ-5 留意事項及び入力上の注意」を参照

◆第1期申し込み◆ 令和8年4月15日（水）締め切り

○研修内容、期日等は pp.15-22 参照

○研修番号3「高等学校初任者研修」、5「新規採用養護教諭研修」、7「県立学校新規採用実習教員・寄宿舎指導員研修」については、研修の申し込みは不要です。総合教育センターで教員サポートシステムへの登録を行います。研修番号41「公立学校の臨時教員等研修」の申し込みについては、別途送付する実施要項等でお知らせします。

研修番号	研修・講座名	指定	自由 応募	教員サポートシステム 備考欄への記載
11	高等学校2年目教員研修			
15	高等学校3年目教員研修			
20	高等学校中堅教諭資質向上研修 【前期・後期（弾力化を含む）】			○
22	中堅養護教諭資質向上研修 【前期・後期（弾力化を含む）】			
27	通級指導担当教員初心者研修		○	
28	高等学校実習教員研修A・B・C	○		
29	県立学校新任生徒指導主事研修			
31	県立学校新任進路指導主事研修			
33	県立学校新任教務主任研修			
34	産業教育学科主任研修			
39	県立学校新任教頭研修			
40	県立学校新任校長研修			
46	外国人児童生徒等教育講座	○	○	
47	教育研究リーダー養成研修※ ¹	○		
59	児童生徒理解に基づく組織的な教育支援に向けた教育相談講座	○	※ ²	
61	あいちクラスルーム・エバンジェリスト養成研修	○		

※¹ 研修番号47「教育研究リーダー養成研修」は、様式6の提出が必要です。様式6は、愛知県総合教育センターのウェブページ「研修事業」からダウンロードできます。必要事項を記入し、所属アドレス（学校代表アドレス）から総合教育センター所属アドレスへメールで提出してください。

※² 自由応募は第2期に申し込んでください。

再任用教諭・臨時的任用教員等、氏名リストに表示されない職員については、登録を行った上で申し込み手続きを行います。登録する場合は各学校の研修担当者に依頼してください。なお、通称を使用する場合は、毎年度初めに各学校で変更するとともに、総合教育センターの各研修の担当者へお知らせください。

◆第2期申し込み◆（自由応募制研修・講座） 令和8年5月29日（金）締め切り

○研修内容、期日等は pp.23-24 及び pp.46-55 参照

研修番号	研修・講座名	研修番号	研修・講座名
54	海洋環境教育講座	58	特別支援教育講座A～E
55	安全教育実技講座 (小型車両系建設機械運転業務特別教育講習)	59	児童生徒理解に基づく組織的な教育支援に向けた教育相談講座
56	刈払機安全衛生教育講座	61	あいちクラスルーム・エバンジェリスト養成研修
57	農業技術講座		

◆eラーニング単独講座申し込み◆ 令和9年2月12日（金）まで随時受付

研修番号	研修・講座名	留意事項
e01～e79	pp.31-45 参照	○総合教育センターにおける「受講許可」については、学校で「受講許可」を行った週の翌週に実施する。

Ⅲ-4 研修の申し込み ～特別支援学校～

pp.10-14「Ⅲ-5 留意事項及び入力上の注意」を参照

◆第1期申し込み◆ 令和8年4月15日(水)締め切り

○研修内容、期日等は pp.15-22 参照

○研修番号4「特別支援学校初任者研修」、5「新規採用養護教諭研修」、6「新規採用栄養教諭研修」、7「県立学校新規採用実習教員・寄宿舍指導員研修」については、研修の申し込みは不要です。総合教育センターで教員サポートシステムへの登録を行います。

○研修番号41「公立学校の臨時教員等研修」の申し込みについては、別途送付する実施要項等でお知らせします。

研修番号	研修・講座名	指定	自由応募	教員サポートシステム 備考欄への記載
12	特別支援学校2年目教員研修			
16	特別支援学校3年目教員研修			
21	特別支援学校中堅教諭資質向上研修【前期・後期(弾力化を含む)】			○
22	中堅養護教諭資質向上研修【前期・後期(弾力化を含む)】			
23	中堅栄養教諭資質向上研修【前期・後期(弾力化を含む)】			
25	特別支援学校初任者研修拠点校指導教員研修			
27	通級指導担当教員初心者研修		盲・聾	
29	県立学校新任生徒指導主事研修			
31	県立学校新任進路指導主事研修			
33	県立学校新任教務主任研修			
35	特別支援学校部主事研修			※2
39	県立学校新任教頭研修			
40	県立学校新任校長研修			
43	幼児教育講座		幼・小	○
44	保育技術講座		幼稚部	
46	外国人児童生徒等教育講座		○	
47	教育研究リーダー養成研修※1	○		
60	特別支援学校におけるセンター的機能強化講座 A ベーシック・B アドバンス	○		

※1 研修番号47「教育研究リーダー養成研修」は、様式6の提出が必要です。様式6は、愛知県総合教育センターのウェブページ「研修事業」からダウンロードできます。必要事項を記入し、所属アドレス(学校代表アドレス)から総合教育センター所属アドレスへメールで提出してください。

※2 学校ページより入力が必要です(p.14参照)。

再任用教諭・臨時的任用教員等、氏名リストに表示されない職員については、登録を行った上で申し込み手続きを行います。登録する場合は各学校の研修担当者に依頼してください。なお、通称を使用する場合は、毎年度初めに各学校で変更するとともに、総合教育センターの各研修の担当者へお知らせください。

◆第2期申し込み◆ (自由応募制研修・講座) 令和8年5月29日(金)締め切り

○研修内容、期日等は pp.23-24 及び pp.46-55 参照

研修番号	研修・講座名
54	海洋環境教育講座
55	安全教育実技講座 (小型車両系建設機械運転業務特別教育講習)
56	刈払機安全衛生教育講座
57	農業技術講座

研修番号	研修・講座名
58	特別支援教育講座A～E
59	児童生徒理解に基づく組織的な教育支援に向けた教育相談講座
61	あいちクラスルーム・エバンジェリスト養成研修

◆eラーニング単独講座申し込み◆ 令和9年2月12日(金)まで随時受付

研修番号	研修・講座名	留意事項
e01～e79	pp.31-45 参照	○総合教育センターにおける「受講許可」については、学校で「受講許可」を行った週の翌週に実施する。

Ⅲ－５ 留意事項及び入力上の注意

研修番号	研修・講座名	校種	留意事項
9 10	小学校2年目教員研修 中学校2年目教員研修	小中義	<p><対象> 令和7年度に小・中学校初任者研修の受講対象であった者（県外で令和7年度の初任者研修の受講対象であった者を含む）。また、養護教諭、栄養教諭は対象外である。対象年度を過ぎて受講を希望する場合は、別途、相談する。</p> <p>○受講日は後日指定する。<u>3日間のうち、やむをえない事情で参加できない日がある場合は、教員サポートシステム申し込み画面「手順3」の「備考」欄に、その期日と理由を入力する。</u></p> <p>（例）8月24日（月） 野外教室引率のため</p> <p>○教員サポートシステム申し込み画面の「手順4」でリストから担当学年を選択する。</p> <p>○受講対象者であるが本年度受講できない者は、教員サポートシステム申し込み画面「手順2」で「2・3年研を受講できない」を選択し、リストから理由を選択する。</p>
11	高等学校2年目教員研修	高	<p><対象> 高等学校に勤務する教諭または養護教諭で、令和7年度の初任者研修または新規採用者研修の受講対象であった者（県外で令和7年度の初任者研修または新規採用者研修の受講対象であった者を含む）。</p> <p>○受講対象者であるが本年度受講できない者は、教員サポートシステム申し込み画面「手順2」で「2・3年研を受講できない」を選択し、リストから理由を選択する。</p>
12	特別支援学校2年目教員研修	特	<p><対象> 特別支援学校に勤務する教諭、養護教諭または栄養教諭で、令和7年度の初任者研修または新規採用者研修の受講対象であった者（県外で令和7年度の初任者研修または新規採用者研修の受講対象であった者を含む）。</p> <p>○受講対象者であるが本年度受講できない者は、教員サポートシステム申し込み画面「手順2」で「2・3年研を受講できない」を選択し、リストから理由を選択する。</p>
13 14	小学校3年目教員研修 中学校3年目教員研修	小中義	<p><対象> 令和6年度に小・中学校初任者研修を受講した者。また、養護教諭、栄養教諭は対象外である。対象年度を過ぎて受講を希望する場合は、別途、相談する。</p> <p>○受講対象者であるが本年度受講できない者は、教員サポートシステム申し込み画面「手順2」で「2・3年研を受講できない」を選択し、リストから理由を選択する。</p> <p>○受講日時は後日指定する。<u>2日間のうち、やむをえない事情で参加できない日や時間帯がある場合は、教員サポートシステム申し込み画面「手順3」の「備考」欄にその日時と理由を入力する。</u></p> <p>（例）9月4日（金）午前・午後 修学旅行引率のため</p> <p>○教員サポートシステム申し込み画面の「手順4」でリストから担当学年を選択する。</p>
15	高等学校3年目教員研修	高	<p><対象> 高等学校に勤務する教諭または養護教諭で、<u>令和6年度に愛知県に教員として採用された者全員</u>（令和5年以前の教職経験の有無は問わない）。</p> <p>○受講対象者であるが本年度受講できない者は、教員サポートシステム申し込み画面「手順2」で「2・3年研を受講できない」を選択し、リストから理由を選択する。</p>
16	特別支援学校3年目教員研修	特	<p><対象> 特別支援学校に勤務する教諭、養護教諭または栄養教諭で、<u>令和6年度に愛知県に教員として採用された者全員</u>（令和5年以前の教職経験の有無は問わない）。</p> <p>○受講対象者であるが本年度受講できない者は、教員サポートシステム申し込み画面「手順2」で「2・3年研を受講できない」を選択し、リストから理由を選択する。</p>
17	幼稚園等中堅教諭資質向上研修	幼	<p><対象> <u>受講対象者については、p.12を参照する。</u></p> <p>詳細については「幼稚園等中堅教諭資質向上研修の手引」を参照する。</p> <p>○在職期間については、p.64の「【参考資料2】幼稚園等中堅教諭資質向上研修にかかる在職期間の例」による。除算する必要がある場合は、除算した年数を「在職期間」欄に入力する。</p>

研修番号	研修・講座名	校種	留意事項												
18 19 20 21 22 23	小学校中堅教諭資質向上研修 中学校中堅教諭資質向上研修 高等学校中堅教諭資質向上研修 特別支援学校中堅教諭資質向上研修 中堅養護教諭資質向上研修 中堅栄養教諭資質向上研修 【後期】は弾力化を含む	共通	<p><対象> 受講対象者については、p.12を参照する。 <教員サポートシステム申し込み画面について> ○「手順2」で「第1期申し込み」を選択し、必要に応じて選択や「備考」欄に下表(1)～(4)を参考にして入力する。 ○「選択研修」欄の入力上の注意 以下の日程に実施される選択研修にて受講したい研修内容をリストから第2希望まで（特別支援学校は第3希望まで）選択する。 養護教諭・栄養教諭について、小中・高等学校は【前期・後期】の夏季のみ、特別支援学校は【後期】の7月23日のみ入力する。 内容の詳細は、「中堅教諭等資質向上研修の手引」を参照する。 【前期】小学校8月18日（火）、中学校8月19日（水） 高等学校7月21日（火）、特別支援学校8月4日（火） 【後期】小学校7月29日（水）・12月24日（木） 中学校7月30日（木）・12月25日（金） 高等学校7月22日（水）・12月2日（水） 特別支援学校7月23日（木）・7月28日（火） ※できる限り希望の研修を受けられるよう配慮するが、定員の都合により希望外の研修内容になることもある。 ○【後期】弾力化希望の選択については、「手順3：研修講座の選択」において、リストから「弾力化MS」「弾力化M」「弾力化S」のいずれかを選択する。ただし、MS両方を前倒して希望しても、定員の関係でどちらか一方しか受講できない場合もある。 ○【後期】弾力化受講希望者は、主任等の役割があれば「備考」欄に下表(4)を参考にして入力する。</p> <table border="1" data-bbox="603 936 1439 1189"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>「備考」欄への入力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 研修の受講を延期していた者が、令和8年度に研修を受講する場合</td> <td>○印を付し、延期していた理由を入力する。 (例)○令和7年度まで育児休業</td> </tr> <tr> <td>(2) 他府県や異校種での経験があるため、令和8年度に対象者になる場合</td> <td>※印を付し、その事情を簡潔に入力する。 (例)※対象者(本県3年目で他県3年経験)</td> </tr> <tr> <td>(3) 任用替えの栄養教諭</td> <td>◆印を付し、任用替えをした年度を入力する。</td> </tr> <tr> <td>(4) 【後期】弾力化希望者</td> <td>主任等の役割があれば入力する。 (例)生徒指導主事</td> </tr> </tbody> </table> <p>※複数項目に該当する場合は項目ごとに改行をする</p> <p>受講対象者であるが本年度受講しない者 ○「手順2」で「延期」「対象外」を選択し、リストから理由を選択する。 ○「選択領域」入力上の注意 ◆「選択教科」について（養護教諭、栄養教諭は入力不要） 令和8年度に授業実践できる教科で、免許教科または専門性を高めたい教科を、下記の教科の中から選んで入力する（[選択不可の例]に注意する）。 ・小・中・義務教育学校共通<国語、社会、算数・数学、理科、音楽、図画工作・美術、体育・保健体育、家庭> ・小・義務教育学校（前期課程）のみ<生活、外国語活動・外国語> ・中・義務教育学校（後期課程）のみ<英語、技術></p> <table border="1" data-bbox="603 1574 1439 1765"> <thead> <tr> <th>[選択不可の例]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>次の場合は、令和8年度に授業実践ができないため選択できない。 ×小学校教諭の「技術」 ×小学校1・2年生担任教諭の「社会」「理科」「外国語活動・外国語」 ×小学校1～4年生担任教諭の「家庭」 ×小学校3～6年生担任教諭の「生活」</td> </tr> </tbody> </table>	区分	「備考」欄への入力	(1) 研修の受講を延期していた者が、令和8年度に研修を受講する場合	○印を付し、延期していた理由を入力する。 (例)○令和7年度まで育児休業	(2) 他府県や異校種での経験があるため、令和8年度に対象者になる場合	※印を付し、その事情を簡潔に入力する。 (例)※対象者(本県3年目で他県3年経験)	(3) 任用替えの栄養教諭	◆印を付し、任用替えをした年度を入力する。	(4) 【後期】弾力化希望者	主任等の役割があれば入力する。 (例)生徒指導主事	[選択不可の例]	次の場合は、令和8年度に授業実践ができないため選択できない。 ×小学校教諭の「技術」 ×小学校1・2年生担任教諭の「社会」「理科」「外国語活動・外国語」 ×小学校1～4年生担任教諭の「家庭」 ×小学校3～6年生担任教諭の「生活」
区分	「備考」欄への入力														
(1) 研修の受講を延期していた者が、令和8年度に研修を受講する場合	○印を付し、延期していた理由を入力する。 (例)○令和7年度まで育児休業														
(2) 他府県や異校種での経験があるため、令和8年度に対象者になる場合	※印を付し、その事情を簡潔に入力する。 (例)※対象者(本県3年目で他県3年経験)														
(3) 任用替えの栄養教諭	◆印を付し、任用替えをした年度を入力する。														
(4) 【後期】弾力化希望者	主任等の役割があれば入力する。 (例)生徒指導主事														
[選択不可の例]															
次の場合は、令和8年度に授業実践ができないため選択できない。 ×小学校教諭の「技術」 ×小学校1・2年生担任教諭の「社会」「理科」「外国語活動・外国語」 ×小学校1～4年生担任教諭の「家庭」 ×小学校3～6年生担任教諭の「生活」															
		高	○担当教科が「理科」である者は、申し込みの際に「理科（物理）」「理科（化学）」「理科（生物）」の中からいずれか一つを選択する。												

幼稚園等中堅教諭資質向上研修の対象者

幼稚園・幼稚園型認定こども園・幼保連携型認定こども園に勤務する教諭・保育教諭のうち、在職期間が7年を経過し、以下の項目に該当する者を指します。

- (1) 原則、平成31年4月1日付け採用者。
- (2) (1)以前の採用者のうち、これまで「10年経験者研修、中堅教諭資質向上研修〔※注〕」を受講していない者。
〔注〕「幼稚園10年経験者研修、中堅教諭資質向上研修」「小・中学校10年経験者研修、小・中・義務教育学校中堅教諭資質向上研修」「養護教諭10年経験者研修、中堅養護教諭資質向上研修」等を含む。その他、他府県の実施するこれに該当する研修。
- (3) (1)以降の採用者のうち、在職期間が7年を経過した者（他府県や異校種での経験がある者。ただし、講師経験は除く）。

◎在職期間の計算方法について

p.64の「【参考資料2】幼稚園等中堅教諭資質向上研修にかかる在職期間の例」を参照してください。

中堅教諭等資質向上研修【前期】の対象者

小・中・義務教育学校・高等学校・特別支援学校に勤務する教諭、養護教諭または栄養教諭のうち、在職期間が5年を経過し、以下の項目に該当する者を指します。

- (1) 原則、令和3年4月1日付け採用者。
- (2) (1)以前の採用者のうち、これまで「5年経験者研修〔※注〕」を受講していない者。
〔注〕「小・中学校5年経験者研修」「高等学校5年経験者研修」「特別支援学校5年経験者研修」「養護教諭5年経験者研修」「栄養教諭5年経験者研修」、他府県の実施するこれに該当する研修。
- (3) (1)以降の採用者のうち、在職期間が5年を経過した者（他府県や異校種での経験がある者。ただし、講師経験は除く）。

◎在職期間の計算方法について

p.65の「【参考資料3】中堅教諭等資質向上研修【前期】にかかる在職期間の例」を参照してください。

中堅教諭等資質向上研修【後期】の対象者

小・中・義務教育学校・高等学校・特別支援学校に勤務する教諭、養護教諭または栄養教諭のうち、在職期間が10年を経過し、以下の項目に該当する者を指します。

- (1) 原則、平成28年4月1日付け採用者。
- (2) (1)以前の採用者のうち、これまで「10年経験者研修〔※注〕」を受講していない者。
〔注〕「幼稚園10年経験者研修」「小・中学校10年経験者研修」「高等学校10年経験者研修」「特別支援学校10年経験者研修」「養護教諭10年経験者研修」「栄養教諭10年経験者研修」、それぞれ「教職経験11年目研修」を含む、他府県の実施するこれに該当する研修。
- (3) (1)以降の採用者のうち、在職期間が10年を経過した者（他府県や異校種での経験がある者。ただし、講師経験は除く）。
- (4) 中堅栄養教諭資質向上研修【後期】については、平成28年4月1日までに学校栄養職員から栄養教諭に任用替えをした者を含む。

◎在職期間の計算方法について

p.66の「【参考資料4】中堅教諭等資質向上研修【後期】にかかる在職期間の例」を参照してください。

<中堅教諭等資質向上研修【後期】の弾力化について>

中堅教諭等資質向上研修【後期】を2つに分割（弾力化MとS）し、定員の範囲内で、学校の実情や本人の希望を踏まえ、前倒し（下記ア）、若しくは後ろ倒し（下記イ）で研修を受講できます。ただし、2年に分割して受講する場合、連続して受講してください。

ア 1年前倒しにより在職期間が9年を経過した教員を受講可能とします。弾力化Mのみ前倒しで受講、弾力化Sのみ前倒しで受講、弾力化MとSの両方を前倒しで受講することができます。ただし、弾力化MとSの両方を前倒して希望しても、定員の関係でどちらか一方しか受講できない場合もあります。

イ 在職期間が10年以上を経過した教員（本来は【後期】（通常）を受講）でも、弾力化MとSに分割して受講することができます。

<p>弾力化M：マネジメント等の研修</p> <ol style="list-style-type: none"> ①全体研修（夏・冬）【計2日】（養護教諭・栄養教諭は夏のみ1日） ②マネジメント力向上のためのOJT（校内研修） ③異校種等研修 ④eラーニング（指定のもの） 	<p>弾力化S：教科指導（専門領域）等の研修</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教科指導研修（専門研修）【計2日】（養護教諭・栄養教諭は3日） ②教科等指導力向上のためのOJT（校内研修） ③特定課題研究 ④eラーニング（指定のもの）
---	--

○弾力化MとSを分割して受講する場合も、「中堅教諭等資質向上研修を受講するに当たって」のeラーニングは、分割受講の初年度に受講する。

詳細については、「中堅教諭等資質向上研修の手引」を御覧ください。

【Ⅲ 研修の申し込み】

研修番号	研修・講座名	校種	留意事項
26	特別支援学級担当教員 初心者研修	小 中 義	<p><対象> 令和8年度に特別支援学級を初めて担当する教員全員。ただし、過去に特別支援学校で勤務した者及び特別支援学級を担当した者を除く。</p> <p>◆令和7年度に本研修を申し込んだが、都合により受講できなかった教員は、自由応募の58「特別支援教育講座（A～E）」の申し込みを推奨する。</p> <p><教員サポートシステム申し込み画面について></p> <p>○「手順4」で、「知的障害」「肢体不自由」「病弱・身体虚弱」「弱視」「難聴」「言語障害」「自閉症」「情緒障害」を選択する。</p> <p>○受講日は後日指定する。4日間のうち、やむをえない事情（宿泊行事、運動会、体育祭、学校訪問等）で参加できない日がある場合は、教員サポートシステム申し込み画面「手順5」の「備考」欄に、その期日と理由を入力する。 （例）5月22日（金） 宿泊行事</p>
27	通級指導担当教員初心者 研修 高・特自由応募	小 中 義 高 特	<p><対象></p> <p>【小・中・義務教育学校】 通級指導を初めて担当する教員全員。</p> <p>【高等学校】 通級による指導担当教員のうち、参加を希望する教員。</p> <p>【特別支援学校】 盲・聾学校の通級による指導担当教員の初心者のうち、参加を希望する教員。</p> <p><教員サポートシステム申し込み画面について></p> <p>○「手順4」で、「肢体不自由」「病弱・身体虚弱」「弱視」「難聴」「言語障害」「自閉症」「情緒障害」「学習障害」「注意欠如多動性障害」等を選択する。</p>
28	高等学校実習教員研修 A：【理科】 B：【農業・水産】 C：【工業】 指定	高	<p>○地区センター委員による調整結果に基づき、参加者がある学校のみ入力する。</p> <p>○Cコース【工業】</p> <p>・実習教員としての経験年数がおおむね5年から15年までの者を対象とし、過去に本研修を受講していない者を優先する（地区に過去、受講済の教員しかいない場合はこの限りでない）。</p>
29	県立学校新任生徒指導主 事研修	高 特	<p><対象> 高等学校、特別支援学校（高等部）の新任生徒指導主事全員を対象とする。</p> <p>○特別支援学校（中学部）の新任生徒指導主事のうち、参加を希望する教員を対象とする。</p> <p>○新任とは、これまでに生徒指導主事の経験の無い者を指す（経験の有無は歴任校も含める）。</p> <p>○令和7年度途中で新たに生徒指導主事になった者で、本研修を受講していない者も対象とする。</p>
30	中学校新任進路指導主 事研修	中 義	<p><対象> 中学校、義務教育学校の新任進路指導主事全員を対象とする。</p> <p>○新任とは、これまでに進路指導主事の経験の無い者を指す（経験の有無は歴任校も含める）。</p> <p>○令和7年度途中で新たに進路指導主事になった者で、本研修を受講していない者も対象とする。</p>
31	県立学校新任進路指導主 事研修	高 特	<p><対象> 高等学校、特別支援学校（高等部）の新任進路指導主事全員を対象とする。</p> <p>○特別支援学校（中学部）の新任進路指導主事のうち、参加を希望する教員を対象とする。</p> <p>○新任とは、これまでに進路指導主事の経験の無い者を指す（経験の有無は歴任校も含める）。</p> <p>○令和7年度途中で新たに進路指導主事になった者で、本研修を受講していない者も対象とする。</p>
32	小中学校新任教務主任研 修	小 中 義	<p><対象> 小・中・義務教育学校の新任教務主任全員を対象とする。</p> <p>○令和7年度途中で新たに教務主任になった者で、本研修を受講していない者も対象とする。</p>
33	県立学校新任教務主任研 修	高 特	<p><対象> 高等学校、特別支援学校（全ての部）の新任教務主任全員を対象とする。</p> <p>○新任とは、これまでに教務主任の経験の無い者を指す（経験の有無は歴任校も含める）。</p> <p>○令和7年度途中で新たに教務主任になった者で、本研修を受講していない者も対象とする。</p>
34	産業教育学科主任研修	高	<p>○各学校 大学科1名（全日制と専攻科を合わせて1名）</p> <p>（ア）定時制については、【工業】城北つばさ・刈谷東、【商業】瀬戸工科が参加する。それ以外は任意参加とする。</p> <p>（イ）総合学科については、【工業】鶴城丘、【農業】鶴城丘・新城有教館が参加する。それ以外は任意参加とする。</p> <p>（ウ）特別支援学校（高等部）及び豊橋市立については任意参加とする。</p> <p>○参加は学科（系列）主任とするが、同一人物が毎年参加となる学校に限り、学科（系列）主任の候補となる教諭の代理参加を可とする。</p>

【Ⅲ 研修の申し込み】

研修番号	研修・講座名	校種	留意事項
35	特別支援学校部主事研修	特	<p><対象> 県立・市立学校の部主事全員を対象とする。</p> <p>○研修申し込みの前に、教員サポートシステムの「学校ページ」より、「教員情報登録入力画面」の「備考欄」に、担当する部を入力する（全員必須とする）。校舎または教室に所属する場合は、これも併せて入力する。</p>
37	小中学校新任教頭研修	小 中 義	<p><対象> 小・中・義務教育学校の新任教頭全員（本研修を受講していない新任副校長を含む）を対象とする。ただし、県立附属中学校及び夜間中学校の新任副校長は別途相談する。</p> <p>○令和7年度途中に昇任した者で、本研修を受講していない者も対象とする。</p>
38	小中学校新任校長研修	小 中 義	<p><対象> 小・中・義務教育学校の新任校長全員を対象とする。</p> <p>○令和7年度途中に昇任した者で、本研修を受講していない者も対象とする。</p>
39	県立学校新任教頭研修	高 特	<p><対象> 高等学校・特別支援学校の新任教頭全員を対象とする。</p> <p>○令和7年度途中に昇任した者で、本研修を受講していない者も対象とする。</p>
40	県立学校新任校長研修	高 特	<p><対象> 高等学校・特別支援学校の新任校長全員を対象とする。</p> <p>○令和7年度途中に昇任した者で、本研修を受講していない者も対象とする。</p>
43	幼児教育講座 幼 指定 小・特 自由応募	幼 小 特	<p>【幼稚園等】 P.6「Ⅲ-1 研修の申し込み～幼稚園等～」を参照する。</p> <p>【小学校、特別支援学校（幼稚部、小学部）】</p> <p>○教員サポートシステム申し込み画面「手順4」の「備考」欄に「主題」と入力する。</p> <p>〔協議主題1〕 指導と評価に生かす記録について</p>
45	道徳推進講座 幼 指定・自由応募 小・中・義 指定	幼 小 中 義	<p><対象></p> <p>【幼稚園等】 P.6「Ⅲ 研修の申し込み～幼稚園等～」を参照する。</p> <p>【小・中・義務教育学校】 道徳教育推進教師を対象とする。</p>
46	外国人児童生徒等教育講座 指定・自由応募	小 中 義 高 特	<p><対象> 外国人児童生徒等教育担当教員及び担当する可能性のある教員で、過去に本講座を受講していない者。ただし、過去にオンラインで受講した者の再受講は認める。</p> <p><教員サポートシステム申し込み画面について></p> <p>○「手順3」で、「地区指定」「自由応募」を必ず区別し、「手順4」で、「外国人児童生徒等教育担当」の経験年数を、歴任校も含めて選択する。</p> <p>○「自由応募」に限り、2日間の集合研修または第1日午前の講義のみのオンライン参加の選択あり。参加方法を「手順4」で選択する。</p>
47	教育研究リーダー養成研修 指定	小 中 義 高 特	<p>○p.63に示す「応募条件」を満たす者について、教員サポートシステムで入力する。</p> <p>【小・中・義務教育学校】</p> <p>○別に（様式5）「教育研究リーダー養成研修（小・中・義務教育学校）参加者推薦書」を、各市町村教育委員会が指定する日までにメールで提出する。</p> <p>【高等学校・特別支援学校】</p> <p>○別に（様式6）「教育研究リーダー養成研修（県立学校）参加者推薦書」を、4月15日（水）までにセンターへメールで提出する。</p>
58	特別支援教育講座	幼 小 中 義 高 特	<p>○A・B・D・Eの各コースは、希望の参加方法を「センター会場」「オンライン」「どちらでもよい」から選択する（オンラインでの受講は、A・B・Eコースは午前のみ、Dコースは午前・午後とする。オンラインでの受講では、同コース内の他の講義や協議は受講できない）。</p> <p>※「センター会場」は人数制限あり。「センター会場」での受講ができない場合は、「オンライン」となる（Cコースを除く）。</p>
59	児童生徒理解に基づく組織的な教育支援に向けた教育相談講座 指定・自由応募	小 中 義 高 特	<p>○地区センター委員による調整結果に基づき、参加者がある学校のみ入力する。</p> <p>○自由応募による参加者については、教員サポートシステム申し込み画面の「手順2」で「第2期申し込み」を選択する。</p>
60	特別支援学校におけるセンター的機能強化講座 A：ベーシック B：アドバンス 指定	特	<p>○指定された学校から1名以上受講する。</p> <p>○1名の場合、A・Bコースの両方を受講する。</p> <p>○2名以上の場合、1名はA・Bコースの両方を受講する。その他の申込者はどちらか一方のコースのみの受講も可とする。</p> <p><教員サポートシステム申し込み画面について></p> <p>○A、Bコースの両方を受講する場合は、両コースそれぞれに申し込みをする。</p>
61	あいちクラスルーム・エバンジェリスト養成研修 指定	高	<p>○地区センター委員による調整結果に基づき、参加者がある学校のみ入力する。</p> <p>○自由応募による参加者については、教員サポートシステム申し込み画面の「手順2」で「第2期申し込み」を選択する。</p>

IV 研修・講座一覧

① キャリア・アップ研修（42講座）

「学び続ける教員」を育成するため、研修体系の幹となるものとして位置付けられるものが「キャリア・アップ研修」です。教職経験に応じて教員としての基本的な資質・能力の向上を図る＜教員の基礎づくりのための研修＞と、キャリアに応じた職責遂行に必要な能力や専門性を高める＜職務に関する研修＞があります。

◇「eL」は、講座の一部を「eラーニング研修」により実施をする研修です。

(1) 初任者研修、新規採用者研修

研修番号	研修・講座名 (予定人数)	ねらい	日数	期日等	eL
1	小学校初任者研修※1※2※3 (500人)	新任の教員に対して、現職研修の一環として、1年間の研修を実施し、必要とされる素養、指導力、マネジメント力といった資質・能力を養うとともに幅広い知見を得ることを目的とします。	9	○A班：4/15、5/20、6/17、7/28、8/5、9/16、10/28、2/10 ○B班：4/15、5/27、6/24、7/28、8/6、10/7、11/4、2/17 ・A班・B班ともに第4回はeラーニング研修（夏季休業中）	○
2	中学校初任者研修※2※3 (250人)		9	○4/15、5/13、7/1、7/28、8/7、10/14、11/11、2/3 ・第4回はeラーニング研修（夏季休業中）	○
3	高等学校初任者研修※2※3 (290人)		12	○4/14、4/21、5/26、7/7、7/30、7/31、9/15、10/6、<10/13、10/27>、11/17、1/26 < >内は、指定の1日に受講 ・第7回はeラーニング研修（夏季休業中）	○
4	特別支援学校初任者研修※2※3 (150人)		12	○4/14、4/21、5/19、6/2、6/30、7/14、7/30、9/15、10/13、11/10、2/2 ・第8回はeラーニング研修（夏季休業中）	○
5	新規採用養護教諭研修※2※3 (55人)	新規採用の教員に対して、現職研修の一環として、1年間の研修を実施し、必要とされる素養、指導力、マネジメント力といった資質・能力を養うとともに幅広い知見を得ることを目的とします。	10	○4/14、5/29、7/3、7/27、<小中義：8/5、県立：9/15>、10/13、11/6、12/1、1/29 ・第6回はeラーニング研修（夏季休業中）	○
6	新規採用栄養教諭研修※2※3 (10人)		10	○4/14、6/5、7/3、7/28、<小中義：8/5、特：9/15>、9/4、10/6、11/18、1/29 ・第6回はeラーニング研修（夏季休業中）	○
7	県立学校新規採用実習教員・ 寄宿舎指導員研修※3 (23人)		2	○4/14、4/17	○
8	幼稚園等新規採用教員研修※2※3 (55人)	9	○4/17、7/3、7/24、7/28、8/5、8/20、8/21、2/5 ・第8回（10月下旬）は保育参観	○	

○1～8の研修の第1回は開講行事、最終回は閉講行事を含みます。

※1 小学校初任者研修の班編制〔A班＝尾張・海部教育事務所管内の学校 B班＝知多・西三河教育事務所管内の学校（中核市を除く）〕

※2 詳細については、「初任者研修の手引」「新規採用養護・栄養教諭の手引」「公立幼稚園新規採用教員研修の手引」を御覧ください。

※3 期日等の波線~~~~は、オンラインまたはeラーニングで実施します。

(2) 2年目・3年目教員研修

研修番号	研修・講座名 (予定人数)	ねらい	日数	期日等	eL
9	小学校2年目教員研修 (458人)	経験に即した体系的な研修の一環として、教育上の課題に対応し得る内容について研修を行い、資質・能力の向上を図ることを目的とします。	1	<8/24、8/25、8/26> 指定の一日に受講	○
10	中学校2年目教員研修 (292人)		1		○
11	高等学校2年目教員研修 (295人)		1	11/13	○
12	特別支援学校2年目教員研修 (149人)		1	8/21	○
13	小学校3年目教員研修 (531人)	経験に即した体系的な研修の一環として、採用後の2年間を振り返り、愛知の公教育を担う者としての立場や役割及び使命を再認識させるための研修を行います。	1	<9/4、9/8> 指定の一日に受講 (オンラインで実施)	○
14	中学校3年目教員研修 (258人)		1		○
15	高等学校3年目教員研修 (253人)	経験に即した体系的な研修の一環として、採用後の2年間を振り返り、愛知の公教育を担う者としての立場や役割及び使命を再認識させるための研修を行います。とりわけ、不祥事防止の決意を確かなものとし、服務規律のいっそうの確保を図ることを目的とします。	1	9/18	○
16	特別支援学校3年目教員研修 (137人)		1	9/11	

(3) 中堅教諭等資質向上研修 ※受講対象はp.12を参照

ねらい：ミドルリーダーとしての自覚のかん養、専門性の向上、得意分野の伸長等、中堅教諭等として職務を遂行する上で必要とされる資質・能力の向上を図るために実施します。

研修番号	研修・講座名 (予定人数)	※4 日数	期日等	eL
17	幼稚園等中堅教諭資質向上研修 (60人)	4	園内研修：7～10日間、特定課題研究 園外研修：7/21、7/27、8/18、異校種等研修1日	○
18	小学校中堅教諭資質向上研修【前期】 (470人)	3	校内研修：教科等指導力向上のためのOJT 校外研修：8/18(全体研修)、教科指導研修2日	○
	小学校中堅教諭資質向上研修【後期】 【後期弾力化MS】 (320人)	5	校内研修：教科等指導力向上のためのOJT、マネジメント力向上のためのOJT、特定課題研究 校外研修：7/29、12/24(全体研修)、教科指導研修2日、異校種等研修1日	○
	小学校中堅教諭資質向上研修【後期弾力化M】 (45人)	3	校内研修：マネジメント力向上のためのOJT 校外研修：7/29、12/24(全体研修)、異校種等研修1日	○
	小学校中堅教諭資質向上研修【後期弾力化S】 (25人)	2	校内研修：教科等指導力向上のためのOJT、特定課題研究 校外研修：教科指導研修2日	○
19	中学校中堅教諭資質向上研修【前期】 (340人)	3	校内研修：教科等指導力向上のためのOJT 校外研修：8/19(全体研修)、教科指導研修2日	○
	中学校中堅教諭資質向上研修【後期】 【後期弾力化MS】 (250人)	5	校内研修：教科等指導力向上のためのOJT、マネジメント力向上のためのOJT、特定課題研究 校外研修：7/30、12/25(全体研修)、教科指導研修2日、異校種等研修1日	○
	中学校中堅教諭資質向上研修【後期弾力化M】 (25人)	3	校内研修：マネジメント力向上のためのOJT 校外研修：7/30、12/25(全体研修)、異校種等研修1日	○
	中学校中堅教諭資質向上研修【後期弾力化S】 (20人)	2	校内研修：教科等指導力向上のためのOJT、特定課題研究 校外研修：教科指導研修2日	○

【IV 研修・講座一覧】

研修番号	研修・講座名 (予定人数)	※4 日数	期 日 等	eL
20	高等学校中堅教諭資質向上研修【前期】 (210人)	3	校内研修：教科等指導力向上のためのOJT 校外研修：7/21（全体研修）、教科指導研修2日	○
	高等学校中堅教諭資質向上研修 【後期】 【後期弾力化MS】 (215人)	5	校内研修：教科等指導力向上のためのOJT、マネジメント力向上のためのOJT、特定課題研究 校外研修：7/22、12/2（全体研修）、教科指導研修2日、異校種等研修1日	○
	高等学校中堅教諭資質向上研修 【後期弾力化M】 (45人)	3	校内研修：マネジメント力向上のためのOJT 校外研修：7/22、12/2（全体研修）、異校種等研修1日	○
	高等学校中堅教諭資質向上研修 【後期弾力化S】 (55人)	2	校内研修：教科等指導力向上のためのOJT、特定課題研究 校外研修：教科指導研修2日	○
21	特別支援学校中堅教諭資質向上研修 【前期】 (105人)	3	校内研修：教科等指導力向上のためのOJT 校外研修：7/24（共通研修）、8/4、12/1（専門研修）	○
	特別支援学校中堅教諭資質向上研修 【後期】 【後期弾力化MS】 (65人)	5	校内研修：教科等指導力向上のためのOJT、マネジメント力向上のためのOJT、特定課題研究 校外研修：7/23、12/2（共通研修）、7/28、8/20（専門研修）、異校種等研修1日	○
	特別支援学校中堅教諭資質向上研修 【後期弾力化M】 (15人)	3	校内研修：マネジメント力向上のためのOJT 校外研修：7/23、12/2（共通研修）、異校種等研修1日	○
	特別支援学校中堅教諭資質向上研修 【後期弾力化S】 (25人)	2	校内研修：教科等指導力向上のためのOJT、特定課題研究 校外研修：7/28、8/20（専門研修）	○
22	中堅養護教諭資質向上研修【前期】 (40人)	3	校内研修：指導力向上のためのOJT <小：8/18、中：8/19、高：7/21、特：7/24>（全体研修）、7/22、8/6（専門研修）	○
	中堅養護教諭資質向上研修 【後期】 【後期弾力化MS】 (45人)	5	校内研修：マネジメント力向上のためのOJT、特定課題研究 校外研修：<小：7/29、中：7/30、高：7/22、特：7/23>（全体研修）、7/24、8/20、8/27（専門研修）、異校種等研修1日	○
	中堅養護教諭資質向上研修 【後期弾力化M】 (5人)	2	校内研修：マネジメント力向上のためのOJT 校外研修：<小：7/29、中：7/30、高：7/22、特：7/23>（全体研修）、異校種等研修1日	○
	中堅養護教諭資質向上研修 【後期弾力化S】 (5人)	3	校内研修：特定課題研究 校外研修：7/24、8/20、8/27（専門研修）	○
23	中堅栄養教諭資質向上研修【前期】 (7人)	3	校内研修：指導力向上のためのOJT 校外研修：<小：8/18、中：8/19、特：7/24>（全体研修）、7/23、8/7（専門研修）	○
	中堅栄養教諭資質向上研修 【後期】 【後期弾力化MS】 (10人)	5	校内研修：マネジメント力向上のためのOJT、特定課題研究 校外研修：<小：7/29、中：7/30、特：7/23>（全体研修）、7/31、8/21、8/26（専門研修）、異校種等研修1日	○
	中堅栄養教諭資質向上研修 【後期弾力化M】 (5人)	2	校内研修：マネジメント力向上のためのOJT 校外研修：<小：7/29、中：7/30、特：7/23>（全体研修）、異校種等研修1日	○
	中堅栄養教諭資質向上研修 【後期弾力化S】 (5人)	3	校内研修：特定課題研究 校外研修：7/31、8/21、8/26（専門研修）	○

※4 日数は校内（園内）研修を除く

(4) 職務に関する研修

研修番号	研修・講座名 (予定人数)	ねらい	日数	期日等	eL
24	小中学校初任者研修拠点校 指導教員研修 (250人)	初任者研修についての共通理解を図るとともに、校内研修上の諸問題及び初任者への指導の在り方についての研修を行い、資質の向上を図ります。 <対象> ○小・中・義務教育学校の拠点校指導教員 ※東三河教育事務所管内の対象者を除く。	4	全体：4/8 1年目と希望者：6/3、 9/9、12/9 ※午後日程 ※第1日は東三河教育事務所と合同開催 第2日以降は総合教育センターと東三河教育事務所で開催	
25	特別支援学校初任者研修 拠点校指導教員研修 (18人)	初任者研修における拠点校方式への共通理解を図るとともに、初任者に対する指導上の諸問題及び指導法についての研修を行い、資質の向上を図ります。 <対象> ○特別支援学校の拠点校指導教員	6	4/2、4/7、6/16、11/17、 1/12、2/9 ※午後日程	
26	特別支援学級担当教員初心者研修 (430人)	特別支援学級の運営や指導上の諸問題及び指導法についての研修を行い、資質・能力の向上を図ります。	1	<5/22、5/29、6/26、7/3> の中の指定の一日に受講 ※東三河教育事務所管内の対象者を除く。ただし、eラーニング研修は東三河教育事務所管内の対象者も受講する。	○
27	通級指導担当教員初心者研修 (120人)	通級指導教室の運営や指導上の諸問題及び指導法についての研修を行い、資質・能力の向上を図ります。	1	6/23	○
28	高等学校実習教員研修 (A：理科コース) 【地区指定】 (16人)	講義・実習を通して、実習教員として必要な知識・技術を習得し、資質・能力の向上を図ります。	1	8/21	○
	高等学校実習教員研修 (B：農業・水産コース) 【地区指定】 (13人)	刈払機の操作やトラクタ・施工用機械等の運転を通して安全教育を実施し、基本的な機械操作や取り扱い技術の習得をする中で、生徒実習指導時及び農場管理時の安全意識の高揚を図ります。また、実習教員としての使命と職責について理解を深めます。	1	8/21	
	高等学校実習教員研修 (C：工業コース) 【地区指定】 (13人)	講義・実習を通して、実習教員として必要な知識・技術を習得し、資質・能力の向上を図ります。	1	8/28	
29	県立学校新任生徒指導主事研修 (60人)	当面する生徒指導上の諸問題について、講義、演習、情報交換等を通じて、共通理解を深め、生徒指導を担当する教員の資質・能力の向上を図ります。	2	5/27、6/5 ※午後日程 ※第1日はオンラインで実施	

【IV 研修・講座一覧】

研修番号	研修・講座名 (予定人数)	ねらい	日数	期日等	eL
30	中学校新任進路指導主事研修 (100人)	進路指導に関する諸問題についての講義・研究協議を行い、資質・能力の向上を図ります。また、eラーニングで中央研修の受講報告や企業が求める人材等を視聴し、キャリア教育に関する基本方針や企業や働き手を取り巻く環境について共通理解を深めます。	1	7/27	○
31	県立学校新任進路指導主事研修 (65人)	進路指導に関する諸問題についての講義・研究協議を行い、資質・能力の向上を図ります。また、eラーニングで中央研修の受講報告等を視聴し、キャリア教育に関する基本方針等について共通理解を深めます。	2	5/22、6/3 ※午後日程 ※第1日はオンラインで実施	○
32	小中学校新任教務主任研修 (150人)	学校教育が抱える今日的課題についての講義や研究協議、教育法規演習などを通して、教務主任としての資質・能力の向上を図ります。	2	6/12、10/27 ※東三河教育事務所管内の対象者を除く。ただし、eラーニング研修は東三河教育事務所管内の対象者も受講する。	○
33	県立学校新任教務主任研修 (90人)	学校教育が抱える今日的課題についての講義や研究協議、教育法規演習などを通して、教務主任としての資質・能力の向上を図ります。	2	6/9、10/16	○
34	産業教育学科主任研修 (90人)	産業教育の抱える今日的な課題についての講義や協議を通して、産業教育学科主任としての資質・能力の向上を図ります。	1	6/10 ※参加は学科(系列)主任とするが、同一人物が毎年参加となる学校に限り、学科(系列)主任の候補となる教諭の代理参加を可とする。	
35	特別支援学校部主事研修 (102人)	学校経営の視点から、部の管理運営上の課題について幅広く研修し、主に管理職として部主事に求められる資質・能力の向上を図ります。	1	12/8	
36	園長等運営管理研修【指定】 (55人)	幼稚園教育要領等に基づいた教育内容、当面する幼児教育の諸問題、園長等に対する園運営・管理の専門的な事項について研修し、管理職や指導者としての資質・能力の向上を図ります。 <対象> ○公私立幼稚園の園長、公私立保育所の所長、公私立認定こども園の園長、市町村の保育行政担当者(名古屋市を含む)	1	7/31	
37	小中学校新任教頭研修 (105人)	当面する学校教育の諸問題及び服務、地域との連携、人権教育、教育法規等について研修し、教頭としての視野を広め、経営能力及び指導力の向上を図ります。	1	10/16 ※東三河教育事務所管内の対象者を除く。ただし、eラーニング研修は東三河教育事務所管内の対象者も受講する。	○

【IV 研修・講座一覧】

研修 番号	研修・講座名 (予定人数)	ねらい	日数	期日等	eL
38	小中学校新任校長研修 (95人)	当面する学校教育の諸問題及び服 務、地域との連携、人権教育、組 織マネジメント等について研修 し、校長としての視野を広め、経 営能力及び指導力の向上を図りま す。	1	11/6 ※東三河教育事務所管内の対 象者を除く。ただし、eラ ーニング研修は東三河教育 事務所管内の対象者も受講 する。	○
39	県立学校新任教頭研修 (65人)	教頭の職務・役割について理解を 深めるとともに、管理職として求 められるリーダーシップと組織マ ネジメント能力の向上を図りま す。	1	5/22	○
40	県立学校新任校長研修 (45人)	学校経営者として、時代の変化に 対応する新しい学校づくりの理念 や方法を身に付けるとともに、校 長として求められるリーダーシッ プと総合的な組織マネジメント能 力の向上を図ります。	1	5/26	○
41	公立学校の臨時教員等研修 (216人)	サービスや人権教育、教育公務員と しての在り方について研修し、資 質の向上を図ります。 <対象> ○県立学校の臨時教員等	1	4/7または4/9 ※午後日程	
42	指導改善研修	「指導が不適切な教員」として認 定された者に対して、学校への復 帰を第一の目的とした適切な研修 を実施し、意識の改善や力量の向 上を図ります。 <対象> 【小・中・義・高・特】	1年	センター会場及び所属校 等	

② リーダー研修（11講座）

リーダー研修とは、教育の諸課題に対する理解や実践力を高め、学校や地域の教育をリードするリーダー教員養成のための研修です。研修後は、個人の資質・能力の向上だけでなく、自校や地域に研修成果を還元し、専門的な知見を広めることを目的とします。47～53の研修に応募するためには、校長の推薦が必要となります。なお、内容等の詳細については、原則として対象者の所属校に別途通知します。

◇「eL」は、講座の一部を「eラーニング研修」により実施をする研修です。

研修番号	研修・講座名 (予定人数)	ねらい	対象	日数	期日等	eL
43	幼児教育講座【指定】 (300人)	幼児教育に関する専門的な講義や協議を行い、幼児教育の振興及び充実を図ります。	【公私立幼・保・認定こども園】 園長等、教員等、保育行政関係者	2	5/21～5/28（eラーニング研修）、8/27	○
	幼児教育講座【自由応募】 (30人)		【小・義（前）・特別支援学校（幼稚部・小学部）】 教員（自由応募）			
44	保育技術講座【指定】 (55人)	講義や研究協議等によって、子どもの発達課題や特性に応じた保育を進めるために必要な専門技術を身に付け、指導力の向上を図ります。	【国公立幼稚園】 主任（主査）及び中堅教員 【公私立保育所】 主任及び中堅保育士 【公私立認定こども園】 主任及び中堅教員、保育士、保育教諭 ※以上、全て名古屋市を含む	2	8/3、8/4	
	保育技術講座【自由応募】 (10人)		【特別支援学校（幼稚部）】 中堅教員（自由応募） 【公立幼稚園】 主任及び教諭			
45	道徳推進講座【地区指定】 (60人)	道徳科についての講義や研究協議を通して、道徳教育、心の教育のいっそうの充実を図ります。	【公立幼稚園】 主任及び教員 【小・中・義】 道徳教育推進教師	1	8/17 ※午前日程	○
	道徳推進講座【自由応募】 (10人)		【私立幼稚園・公私立認定こども園】 主任及び教員、保育教諭			
46	外国人児童生徒等教育講座【地区指定】 (小・中・義：32人) (高・特：4人)	講義、演習、研究協議などを通して、外国人児童生徒等教育に必要な知識や技能を習得し、資質・能力の向上を図ります。	【小・中・義・高・特】 外国人児童生徒等教育担当教員及び担当する可能性のある教員で、過去に本講座を受講していない者	2	6/9、 <小：9/9、中・県立：10/27> ※自由応募に限り、2日間の集合研修または、第1日午前の講義のみのオンライン参加の選択あり	○
	外国人児童生徒等教育講座【自由応募】 (24人)		【小・中・義・高・特】 外国人児童生徒等教育担当教員及び担当する可能性のある教員で、過去に本講座を受講していない者			

【IV 研修・講座一覧】

研修番号	研修・講座名 (予定人数)	ねらい	対象	日数	期日等	eL
47	教育研究リーダー養成研修 (小・中・義：20人) (高・特：13人)	理論的・実践的な教育研究を通して、課題解決能力と同僚性の構築力を身に付けたミドルリーダーの育成を目指す研修を行います。	【小・中・義】 校長、市町村教育委員会教育長及び教育事務所長の推薦を受けた者 【高・特】 校長の推薦を受けた者	10	5/15、7/23、 8/3、8/17、 2/12 上記の他に 個別研修3日、 訪問研修2日 ※研修の概要、応募条件についてはp.63を参考にしてください。	
48	県立学校運営講座 (80人)	学校経営の視点から、教育法規や財務事務、学校の課題への対応と求められる主任の役割等について研修を行い、幅広い視野に立った教育観の確立と中堅主任に求められる資質・能力の向上を図ります。	【高・特】 校長の推薦を受けた者	2	10/9、10/30	
49	教育相談特別研修 (2人)	総合教育センター及び愛知教育大学において、教育相談に関する研究を通して研修を行います。	【高】 教職経験がおおむね10年から20年の者で、校長が認めた者	1年	令和8年4月から 令和9年3月まで	
50	小中学校社会体験型教員研修 (3人)	豊かな見識と広い視野に立った教育力を培わせ、新たな教育を推進するリーダーの養成を図ります。教員に学校以外の諸施設で、多様な体験を積み重ね、企業等の人材育成、人事管理等を学び、学校運営に生かします。社会の構成員としての視野を広げ、「持続可能な社会の創り手」を育成する学校づくりに役立てます。	【小・中・義】 校長の推薦を受けた者	1年	令和8年4月から 令和9年3月まで ※具体的な研修内容は、派遣先と協議します。	
51	大学院及び教職大学院派遣研修	現職のまま、愛知教育大学または新教育大学（兵庫、上越、鳴門）において、長期間にわたって研修・研究を行います。	【小・中・義・特】 校長の推薦を受けた者	2年	愛知教育大学においては、教職大学院のみの研修	
52	愛知教育大学特別支援教育特別専攻科内地留学研修	特別支援教育分野の専門的知識や技術を習得し、資質・能力の向上と指導力の充実を図ります。	【小・中・義・特】 校長の推薦を受けた者	1年	愛知教育大学における研修	
53	国立特別支援教育総合研究所特別支援教育専門研修	特別支援教育分野の専門的知識や技術を習得し、資質・能力の向上と指導力の充実を図ります。	【小・中・義・特】 校長の推薦を受けた者	2か月程度	オンライン及び国立特別支援教育総合研究所における研修	

③ スキル・アップ研修（88講座）

スキル・アップ研修とは、教員としての専門的な知識・技能を補完し、進展させる研修であり、受講希望者を対象とする自由応募制による研修※¹です。一部、地区または学校ごとに人数を指定する講座があります。

予定人数を超える申し込みがある場合は、各学校から代表1名の参加や抽選等に対応します。

◇「eL」は、講座の一部を「eラーニング研修」により実施をする研修です。

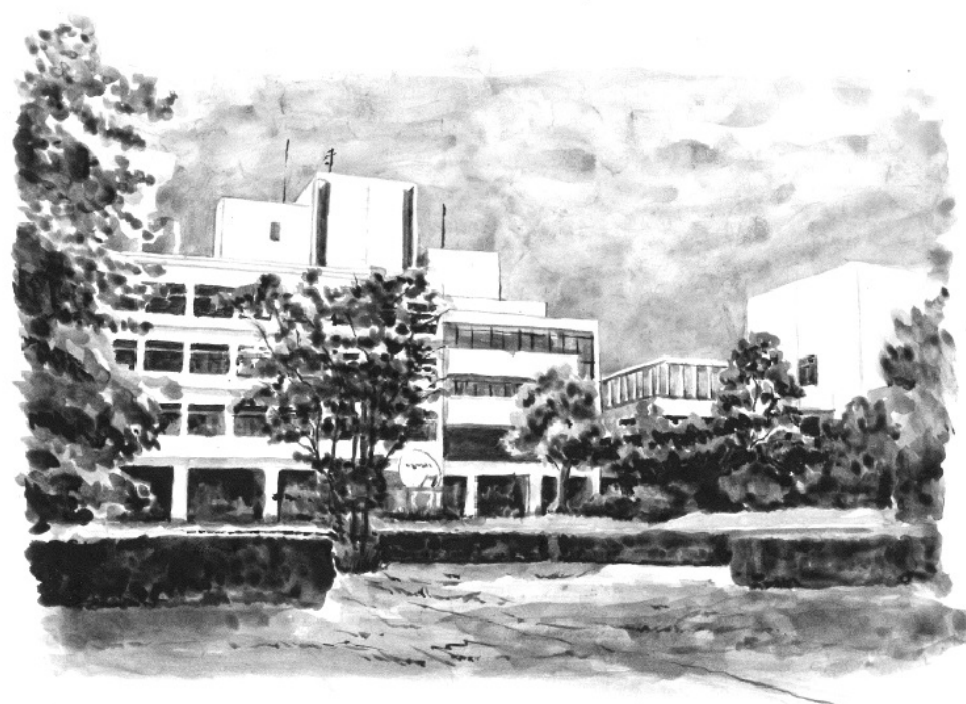
研修番号	研修・講座名 (予定人数)	対象	日数	期日等	eL
54	海洋環境教育講座 (15人)	【幼・小・中・ 義・高・特】	1	7/29 会場：実習船「愛知丸」	
55	安全教育実技講座（小型車両系建設 機械運転業務特別教育講習） (10人)	【高・特】 産業教育関係学科 教員	2	8/19、8/20 会場：農業教育共同実習所	
56	刈払機安全衛生教育講座 (20人)	【幼・小・中・ 義・高・特】	1	10/9または12/1 会場：農業教育共同実習所	
57	農業技術講座 (20人)	【幼・小・中・ 義・高・特】	1	8/18 会場：農業教育共同実習所	
58	特別支援教育講座 A 自立活動セミナー1 (70人)	【幼・小・中・ 義・高・特】	1	7/31 センター会場（終日）またはオンライン （午前のみ）	
	特別支援教育講座 B 自立活動セミナー2 (70人)	【幼・小・中・ 義・高・特】	1	8/4 センター会場（終日）またはオンライン （午前のみ）	
	特別支援教育講座 C 自立活動セミナー3 (40人)	【幼・小・中・ 義・高・特】	1	7/24	
	特別支援教育講座 D インクルーシブ教育システム推進 セミナー (70人)	【幼・小・中・ 義・高・特】	1	8/17 センター会場（終日）またはオンライン （午前・午後）	
	特別支援教育講座 E ICT活用セミナー (30人)	【幼・小・中・ 義・高・特】	1	7/27 センター会場（終日）またはオンライン （午前のみ）	
59	児童生徒理解に基づく組織的な 教育支援に向けた教育相談講座 【地区指定】 (16人)	【高】	2	7/24、11/10	○
	児童生徒理解に基づく組織的な 教育支援に向けた教育相談講座 【自由応募】 (24人)	【小・中・義・ 高・特】			
60	特別支援学校におけるセンター的 機能強化講座 A ベーシック 【学校指定】 (30人)	【特】	2	5/27、8/25 第1日はオンライン	
	特別支援学校におけるセンター的 機能強化講座 B アドバンス 【学校指定】 (30人)	【特】	1	1/15	

【IV 研修・講座一覧】

研修 番号	研修・講座名 (予定人数)	対象	日数	期日等	eL
61	あいちクラスルーム・エバンジェ リスト養成研修【地区指定】 (12人)	【高・特】	3	7/24、10/9、12/24	○
	あいちクラスルーム・エバンジェ リスト養成研修【自由応募】 (18人)	【高・特】			
62	1人1台端末を活用した授業づくり 講座 (40人)	【小・中・義】	1	8/27 会場：愛知教育大学	
e01 } e79	eラーニング単独講座※2	【全】		5/1～2/26 ※申し込みは令和9年2月12日（金） まで	○

※1 詳細については、pp.46-55「VI スキル・アップ研修の詳細について」を御覧ください。

※2 受講するにあたっては、pp.26-45「V eラーニング研修の実施について」を御覧ください。



④ 事務職員等研修（8講座）

研修番号J01からJ06までの研修の申し込み手続き等の詳細は、別途、通知します。

(1) 小中学校事務職員研修

研修番号	研修名 (予定人数)	ねらい	対象者	日数	期日等
J01	新規採用者研修 (42人)	学校事務職員として必要な基礎知識や、法制及び実務に関する知識の習得を図ります（給与、福利厚生、服務、地方教育行政制度、税の基礎知識、人権教育、学校安全、メンタルヘルス、グループワーク等）。	令和8年度 新規採用者	6	4/23、5/7、5/14、 9/3、9/10、9/17
J02	中堅者前期研修 (72人)	中堅事務職員として必要な幅広い視野と的確な判断力の養成並びに職務遂行能力の向上を図ります（学校運営論、教育行政法、情報セキュリティ、グループワーク等）。	平成31年度 (令和元年度) 採用者 (採用8年目)	3	10/8、10/29、11/12
J03	中堅者後期研修 (51人)	中堅事務職員として必要な幅広い視野と的確な判断力の養成並びに職務遂行能力の向上を図ります（学校組織マネジメント、タイムマネジメント、グループワーク等）。	平成28年度 採用者 (採用11年目)	3	10/15、11/5、11/19
J04	新任主査研修 (40人)	主査としての役割の自覚及び基本的管理能力の養成を図ります（学校運営論、服務管理、リーダーシップ・フォロワーシップ、人権教育、グループワーク等）。	令和8年度 昇任者	3	5/21、6/4、6/18
J05	現任主査研修 (29人)	主査として必要な指導力の向上と行政的視野の拡大を図ります（リーダーシップ論、メンタルヘルス、情報セキュリティ、グループワーク等）。	令和3年度 昇任者	2	5/28、6/11
J06	新任事務長・総括事務長研修 (10人)	事務長としての役割の自覚及び学校経営参画に向けた企画・遂行能力の養成を図ります（学校経営論、コミュニケーション、講話（事務長の役割等）、グループワーク等）。	令和8年度 課長補佐級昇任者	2	11/26、12/11

※事務職員は、この他にも研修番号e01～e79のeラーニング研修の講座を受講することができます。

【申し込み】

- ・eラーニング研修の講座は、随時、応募を受け付けます（令和9年2月12日（金）到着分まで）。
- ・「様式4（p.58）」を使用して申し込んでください。

【各講座の内容及び詳細】

- ・pp.31-44を御覧ください。

(2) 県立学校用務員等研修

研修番号	研修名 (予定人数)	ねらい	対象者	日数	期日等
J07	県立学校用務員研修 (120人)	用務員として必要な学校環境整備、電気及び水道に関する知識・技能の習得を図ります。	用務員のうち希望する者	1	別途通知 8月～10月 (4会場：20人×6回)
J08	県立学校図書館関係職員研修 (40人)	県立学校図書館における図書館資料の利用に関する事務に従事する職員の資質の向上を図ります。	図書館事務に従事する事務職員または実習教員のうち希望する者	1	別途通知 10月～11月 (1会場：40人)

V eラーニング研修の実施について

1 eラーニング研修とは

eラーニング研修は、受講者が所属校（園）等で自己の都合に合わせて教材を視聴して学習するオンデマンド型の研修です。指定された期間内であれば、繰り返し学習することもできます。

教員サポートシステムにログインして、各研修・講座の申し込み手続き（学校・センターの受講許可）が完了すると、視聴できます。ただし、幼稚園等、事務職員等は、ユーザIDとパスワードが必要です。

詳細については、各研修・講座の開催通知等に添付する受講方法を御覧ください。

2 利用申請とユーザID及びパスワードの発行

- (1) 該当の研修・講座の希望者名簿（幼稚園等は「様式2」、事務職員等は「様式4」）の提出及び教員サポートシステムによる研修・講座の申し込みが、利用申請を兼ねています。
- (2) 幼稚園等のユーザID及びパスワードについては、該当の研修・講座の実施要項（スキル・アップ研修の場合は可否通知）を送付する際にお知らせします。
- (3) eラーニング単独講座については、申し込み手続き（学校・センターの受講許可）が完了し次第、受講可能となるため、「研修 My Page」にて御確認ください。

総合教育センターウェブサイト「研修事業」>「教員サポートシステム（研修 My Page）」

3 著作権レベルと教材の二次利用

eラーニング研修教材には、次のような著作権レベルを設定しています。

- ・レベルA：利用者による一般的な研修受講を想定した利用行為
- ・レベルB：学校等の研修支援を想定した教材の二次利用行為

なお、著作権レベルA B（A、B両方の利用行為を想定するもの）の教材については、一定の要件（「eラーニングシステム利用要項」（p.45参照）を満たせば、校内研修等において利用が可能です。希望する場合は、校内研修等を実施する年度の1月末までに（ただし、実施する期日の2週間前までに）「eラーニング研修教材にかかる学校等利用申請書」（p.62様式E1）を提出してください。各教材の著作権レベルは、「5 eラーニング研修を実施する研修・講座一覧」（pp.27-44）に示してあります。

4 不具合が生じた場合の対応

研修受講中、重大な不具合が発生し学習できない場合、下記により電子メールで御連絡ください。不具合の内容を検討し、折り返し総合教育センター担当者から対応方法について連絡します。

アドレス：elnhelp@apcc.aichi-c.ed.jp（全て半角小文字です）

件名：「不具合の連絡（〇〇立〇〇学校、園）」

本文欄：次の点について記載してください。

- ①学校（園）名と連絡者の職・氏名
 - ②連絡先メールアドレス
 - ③学校（園）電話番号
 - ④受講するeラーニング研修の研修・講座名及び教材名、受講者名
 - ⑤接続パソコンのOS及びブラウザ（例：Windows11、Microsoft Edge）
 - ⑥不具合の内容・状況
- ※「操作マニュアル」及び「トラブルシューティング」を読んで参考にしたところを記載し、その上で、解決していない内容を具体的に記述してください。

なお、緊急の場合は、管理職に相談の上、総合教育センター総務企画課企画情報推進室へ御連絡ください。

5 eラーニング研修を実施する研修・講座一覧

- ・研修・講座名と対応するeラーニング研修教材名を一覧にしてあります。教材の学習期間を確認し、必ず指定の期間内に学習してください。
- ・対象者及びセンターでの研修期日等は、本案内「IV 研修・講座一覧」（pp.15-24）で確認してください。

(1) 研修の一部または事前学習若しくは事後学習として受講する

ア 初任者研修及び新規採用者研修の日数として数えるもの

研修番号	研修・講座名	eラーニング研修教材名	学習時間の目安(分)	学習期間	著作権レベル
3 4 5 6 7	開講行事 高等学校初任者研修 特別支援学校初任者研修 新規採用養護教諭研修 新規採用栄養教諭研修 県立学校新規採用実習教員・寄宿舎指導員研修	教育長挨拶、教職員課長講義 教職員としての生き方	未定 未定	4/14	A A
8	開講行事 幼稚園等新規採用教員研修	教育長挨拶、教職員課長講義 教職員としての生き方 社会人としてのマナー 期待される教員になるために	30 47 60 18	4/17	A A AB A
1	小学校初任者研修 第4回(夏期eラーニング研修)	小学校英語の基礎 外国人児童生徒等教育の現状と課題 情報教育(情報モラル・プログラミング教育を含む)	48 35 55	7/22~8/31	A AB A
2	中学校初任者研修 第4回(夏期eラーニング研修)	外国人児童生徒等教育の現状と課題 情報教育(情報モラル・プログラミング教育を含む)	35 55	7/22~8/31	AB A
3	高等学校初任者研修 第7回(夏期eラーニング研修)	総合的な探究の時間の意義と実際 特別活動の意義と実際 タイムマネジメント講座 SDGs達成に向けたJICAの取組 SDGs達成に向けた学校での実践例	25 26 17 未定 未定	7/22~8/31	A A A AB AB
4	特別支援学校初任者研修 第8回(夏期eラーニング研修)	発達障害の理解①～基礎的な理解と具体的な支援～ 行動への支援①～行動をどのようにとらえるか～ タイムマネジメント講座 SDGs達成に向けたJICAの取組 SDGs達成に向けた学校での実践例	36 29 17 未定 未定	7/22~8/31	AB AB A AB AB
5	新規採用養護教諭研修 第6回(夏期eラーニング研修)	発達障害の理解①～基礎的な理解と具体的な支援～ 学校現場の職場ストレスとその対処法 性の多様性の理解推進講座	36 30 29	7/22~8/31	AB AB AB
6	新規採用栄養教諭研修 第6回(夏期eラーニング研修)	栄養教諭に関する法規と職務内容 外国人児童生徒等教育の現状と課題 情報教育(情報モラル・プログラミング教育を含む)	50 35 55	7/22~8/31	AB AB A

イ ア以外のもの

研修番号	研修・講座名	eラーニング研修教材名		学習時間の目安(分)	学習期間	著作権レベル
3 20	高等学校初任者研修 ^{注1} 高等学校中堅教諭資質向上研修 【前期・後期(弾力化MS及びSを含む)】 ^{注1}	国語	高等学校国語の授業構想の工夫	28	6/1~7/3	A B
		地理歴史・公民	高等学校地理歴史・公民の授業構想の工夫	53		A B
		数学	高等学校数学の授業構想の工夫 1・2 ^{注2}	30・29		A B
		理科	高等学校理科の授業構想の工夫	42		A B
		英語	高等学校英語の授業構想の工夫	76		A B
5 6	新規採用養護教諭研修 新規採用栄養教諭研修	学校保健について		49	5/7~6/9	A
		社会人としてのマナー ^{注3}		60		A B
7	県立学校新規採用実習教員・ 寄宿舎指導員研修	人権教育について(基礎編)		24	5/7~6/9	A
9 10	小学校2年目教員研修 中学校2年目教員研修	学級経営について		32	8/17~9/30	A
11 12	高等学校2年目教員研修 特別支援学校2年目教員研修	防災教育基礎研修Ⅰ		未定	7/27~9/30	A
		防災教育基礎研修Ⅱ		62		A
13 14	小学校3年目教員研修 中学校3年目教員研修	人権教育について(基礎編)		24	8/17~9/30	A
		発達障害の理解①~基礎的な理解と具体的な支援~		36		A
		改めて感じた教員の魅力		37		A
15	高等学校3年目教員研修	発達障害の理解①~基礎的な理解と具体的な支援~		36	7/27~9/30	A
17	幼稚園等中堅教諭資質向上研修	中堅教諭等資質向上研修を受講するに当たって		23	5/26~6/26	A
		特定課題研究の進め方とまとめ方 ^{注4}		24		A
		ESDについて		65	8/18~1/8	A B
		人権教育について(リーダー編)		24		A
		学校安全の推進		44		A B
発達障害の理解①~基礎的な理解と具体的な支援~		36	A B			
18 19	小学校中堅教諭資質向上研修 【前期】 中学校中堅教諭資質向上研修 【前期】	中堅教諭等資質向上研修を受講するに当たって		23	5/26~6/26	A
21	特別支援学校中堅教諭資質向上 研修【前期】	人権教育について(基礎編)		24		A
22	中堅養護教諭資質向上研修 【前期】	情報モラル		45	8/18~1/8	A B
23	中堅栄養教諭資質向上研修 【前期】	ESDについて		65		A B
20	高等学校中堅教諭資質向上研修 【前期】	中堅教諭等資質向上研修を受講するに当たって		23	5/26~6/26	A
		人権教育について(基礎編)		24		A
		効果を上げる授業研究の在り方		18	A B	
		情報モラル		45	8/18~1/8	A B
		ESDについて		65		A B

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	研修・講座名	eラーニング研修教材名	学習時間の目安(分)	学習期間	著作権レベル							
18	小学校中堅教諭資質向上研修【後期】	中堅教諭等資質向上研修を受講するに当たって	23	5/26～6/26	A							
		特定課題研究の進め方とまとめ方 ^{注4}	24		A							
		人権教育について（リーダー編）	24		A							
		学校と地域の連携・協働に向けて	35		AB							
		学校安全の推進	44		AB							
		19	中学校中堅教諭資質向上研修【後期】	数学 ^{注5} 中学校数学科講座～授業構想の工夫～	30	7/21～8/20	AB					
		20	高等学校中堅教諭資質向上研修【後期】	初年度 注6 弾力化 S M	中堅教諭等資質向上研修を受講するに当たって	23	5/26～6/26	A				
		21	特別支援学校中堅教諭資質向上研修【後期】						特定課題研究の進め方とまとめ方 ^{注4}	24	A	
		22	中堅養護教諭資質向上研修【後期】						数学 ^{注5} 中学校数学科講座～授業構想の工夫～	30	7/21～8/20	AB
		23	中堅栄養教諭資質向上研修【後期】						人権教育について（リーダー編）	24	8/18～1/8	A
学校と地域の連携・協働に向けて	35								AB			
学校安全の推進	44								AB			
20	高等学校中堅教諭資質向上研修【後期（弾力化MS及び弾力化Sを含む）】	家庭 農業 工業 商業 水産 看護 福祉	産業教育における評価の在り方	80	6/19～10/23	AB						
		工業 家庭 看護 福祉	SDGs達成に向けたJICAの取組	未定	5/18～6/18	AB						
			SDGs達成に向けた学校での実践例	未定								
26	特別支援学級担当教員初心者研修	愛知の特別支援教育	31	5/1～9/1	AB							
		特別支援学級における指導の実際	19		AB							
		特別支援教育における教育課程	55		AB							
27	通級指導担当教員初心者研修	愛知の特別支援教育	31	5/1～9/1	AB							
28	高等学校実習教員研修（A：理科コース）	理科観察・実験の指導の基礎	44	6/1～8/28	AB							
30	中学校新任進路指導主事研修	進路指導伝達講習 2026（中学校編）	28	5/18～6/26	A							
		企業が求める人材と進路指導の在り方	56		A							
31	県立学校新任進路指導主事研修	進路指導伝達講習 2026（県立学校編）	22	5/7～5/28	A							
32	小中学校新任教務主任研修	人権教育について（リーダー編）	24	5/26～9/25	A							
		子どもの安全と安心を守る	34		AB							
		教育法規入門（基礎編）	13		A							
33	県立学校新任教務主任研修	人権教育について（リーダー編）	24	6/1～9/11	A							
		教育法規入門（基礎編）	13		A							

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	研修・講座名	eラーニング研修教材名	学習時間の目安(分)	学習期間	著作権レベル
37	小中学校新任教頭研修	人権教育について(リーダー編)	24	5/7~9/25	A
		子どもの安全と安心を守る	34		AB
		OJTの推進について	18		AB
		学校における防災管理について	33		AB
38	小中学校新任校長研修	人権教育について(リーダー編)	24	5/7~10/16	A
		子どもの安全と安心を守る	34		AB
		学校組織マネジメント概論	49		A
		OJTの推進について	18		AB
39	県立学校新任教頭研修	学校における防災管理について	33	5/25~7/31	AB
		OJTの推進について	18		AB
40	県立学校新任校長研修	OJTの推進について	18	5/27~7/31	AB
43	幼児教育講座	令和8年度幼児教育の理解・発展推進事業(都道府県協議会)における愛知県担当の協議主題について解説	未定	5/21~5/28	A
45	道徳推進講座	道徳教育講座~考え議論する道徳~注3	88	5/25~6/30	AB
46	外国人児童生徒等教育講座	外国人児童生徒等教育の現状と課題	35	5/1~5/29	AB
59	児童生徒理解に基づく組織的な教育支援に向けた教育相談講座	「チーム学校」を生かすケース会議の在り方	44	6/29~10/23	AB
61	あいちクラスルーム・エバンジェリスト養成研修	GIGAスクール構想の動向について	57	6/29~8/31	A
		オンライン教育の効果と課題について	96		A
		情報モラル	45		AB

注1 専門教科が国語、地理歴史・公民、数学、理科または英語の場合のみ対象

注2 高等学校初任者研修対象者は「高等学校数学の授業構想の工夫1」を受講し、高等学校中堅教諭資質向上研修【前期】及び【後期】の対象者は「高等学校数学の授業構想の工夫2」を受講

注3 小・中・義務教育学校の受講者のみ対象

注4 指定された学習期間内に学習を完了した後、8/18~1/8の期間に再視聴が可能

注5 中学校中堅教諭資質向上研修【後期】の専門教科が数学の場合のみ対象

注6 受講の弾力化の受講者でMSの研修者は全ての教材を受講する。また「中堅教諭等資質向上研修を受講するに当たって」の受講については、M及びSに限らず、弾力化の初年度に受講

(2) eラーニングのみの講座を受講する（eラーニング単独講座）

全ての教職員が受講することができます。また、センターでの集合研修は行いません。

学 習 期 間：令和8年5月1日（金）～令和9年2月26日（金）

申し込み期限：令和9年2月12日（金） 随時申し込みができます

研修 番号	講座名（教材名※） 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習 時間の 目安 (分)	著作 権レ ベル
e01	小学校国語科講座～授業構想の工夫～ 岡崎女子大学 特任教授 佐藤 洋一	小学校国語の授業に関する内容について学習し、授業力の向上を図る。	はじめに 1 6つの言語能力が、資質・能力と幸福になるための生きる力を支える 2 かぐや姫は、なぜ月に…帰るのか？ 3 古典クイズで楽しもう！ 4 「伝統的な言語文化」の何を、どこまでどう教え、どのように評価するのか？	48	A B
e02	小学校社会科講座～授業構想の工夫～ 愛知教育大学 准教授 真島 聖子	小学校社会科の重要なポイントについて学習し、問題解決的な学習のプロセスを通して育成する資質・能力や授業構想上の知見を広げることをねらいとします。	1 こどもの意見表明と多様な社会参画 2 価値観の多様化と判断力の育成 3 問いを立てる・問いを吟味する 4 つなげる力を鍛える 5 地域との連携・外部資源の活用	35	A B
e03	小学校算数科講座～授業構想の工夫～ （「て」「め」「あたま」を意識した算数授業づくり） 岐阜聖徳学園大学 教授 鈴木 明裕	小学校学習指導要領算数科の趣旨を解説し、そのポイントを授業構想に生かすことができますようにします。児童が数学的な見方・考え方を働かせ、主体的に取り組むことができる授業づくりの方法を学び、授業力の向上を目指します。	1 基本の確認 2 「て」「め」「あたま」を意識した算数授業 3 教材研究の第一歩 4 導入の工夫	32	A B
e04	小学校理科講座～授業構想の工夫～ （小学校理科講座 授業の作り方） 愛知教育大学 教授 大鹿 聖公	小学校学習指導要領理科の趣旨を解説し、そのポイントを授業構想に生かすことができますようにします。特に、児童が理科の見方・考え方を働かせ、主体的に取り組むことができる授業のつくり方について説明します。	1 小学校学習指導要領理科の趣旨及びポイントの解説 2 小学校理科における見方・考え方 3 児童が主体的になる授業づくり 4 育成を目指す資質・能力に基づく授業評価	29	A B
e05	小学校音楽科講座～授業構想の工夫～ 愛知教育大学 教授 新山王 政和	音楽科の授業に関する基礎的・基本的な内容について説明し、児童が主体的に取り組むことができる授業づくりの方法を学び、授業力の向上を図ることをねらいとします。	1 音楽科の授業で目指すこと 2 音楽科における「知識」「技能」「習得・活用・探究」 3 「曲想」と「音楽の構造」 4 音楽科における評価の基本	31	A B
e06	小学校図画工作科講座～授業構想の工夫～ 名古屋経済大学 教授 塚本 敏浩	図画工作科の授業に関する基礎的・基本的な内容について説明し、児童が造形的な見方・考え方を働かせながら、主体的に取り組むことができる授業づくりについて学びます。	1 図画工作科の基本と学習指導要領について 2 授業をつくる上での5つのポイント	36	A B

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベル
e07	小学校体育科講座～授業構想の工夫～ （「主体的・対話的で深い学びの実現」「教材づくり」「課題づくり」） 愛知教育大学 教授 森 勇示	体育科の授業に関する基礎的・基本的な内容について学習し、授業力の向上を図ることをねらいとします。	1 「主体的・対話的で深い学びの実現」 ①これまでの体育 ②「主体的学び」とは ③「深い学び」のための「対話的学び」 2 「教材づくり 課題づくり」 ①運動条件を「足し算・かけ算」する ②課題をつくる ※ e15と同じ教材になります。	80	A B
e08	小学校家庭科講座～授業構想の工夫～ 愛知教育大学 講師 田代 幸子	小学校家庭科の授業に関する基礎的・基本的な内容について学習し、授業力の向上を図ることをねらいとします。	学習指導要領から学ぶ、これからの家庭科教育 1 家庭科教育の変遷 2 家庭科の授業で大切にしたいこと 3 持続可能な社会を追究する家庭科の授業 ※ e16と同じ教材になります。	23	A B
e09	中学校国語科講座～授業構想の工夫～ 岡崎女子大学 特任教授 佐藤 洋一	中学校国語科の授業に関する内容について学習し、授業力の向上を図る。	はじめに 1 これからの「言葉の教育」はどうあるべきか、課題と提言 2 資質・能力型教育とは何か（コンピテンシーベースの教育） 3 書いてまとめる力が弱い?! のはなぜか? 4 話し合い・討論はなぜ深まらないのか? 5 まとめにかえて	41	A B
e10	中学校社会科講座～授業構想の工夫～ 愛知教育大学 准教授 真島 聖子	中学校社会科の重要なポイントについて学習し、課題解決的な授業づくりや授業構想上の知見を広げることをねらいとします。	1 子どもが主体的に動き出す学習計画 2 18歳成人を見据えた社会科授業づくり 3 地理的スキルと見方・考え方を育てる授業デザイン 4 現代につながる歴史授業 5 民主主義社会の創り手を育む公民授業	63	A
e11	中学校数学科講座～授業構想の工夫～ （中学校数学科講座～データの活用領域での授業構想の工夫～） 愛知教育大学 准教授 青山 和裕	中学校学習指導要領の「データ活用」の指導の意義を踏まえ、中学校2年の「箱ひげ図」の授業構想について解説します。子どもたちが主体的に取り組むことができるテーマや題材の選び方、効果的に活用できるアプリの紹介もあります。	1 データの活用領域の指導について 2 テーマ・題材の選び方 3 利用するデータについて 4 単元の展開の仕方 5 授業で使える分析アプリ 6 授業実践事例	30	A B
e12	中学校理科講座～授業構想の工夫～ （中学校理科講座 探究的な授業プラン） 愛知教育大学 教授 大鹿 聖公	中学校学習指導要領理科の趣旨を解説し、そのポイントを授業構想に生かすことができるようにします。特に、生徒が理科の見方・考え方を働かせ、主体的に取り組むことができる授業のつくり方について説明します。	1 中学校学習指導要領理科の趣旨及びポイントの解説 2 中学校理科における見方・考え方 3 生徒が主体的になる授業づくり 4 育成を目指す資質・能力に基づく授業評価	29	A B

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベ
e13	中学校音楽科講座～授業構想の工夫～ 愛知教育大学 教授 新山王 政和	音楽科の授業に関する基本的な内容について説明し、生徒が主体的に取り組むことができる授業づくりの方法を学び、授業力の向上を図ることをねらいとします。	1 音楽科の授業で目指すこと 2 音楽科における「知識」「技能」「習得・活用・探究」 3 音楽科における評価の基本 4 教師自身の音楽観を広げる	29	A B
e14	中学校美術科講座～授業構想の工夫～ (中学校美術科講座～授業づくりで心がけたいこと～) 名古屋経済大学 教授 塚本 敏浩	美術科の授業に関する基礎的・基本的な内容について説明し、生徒が造形的な見方・考え方を働かせながら、主体的に取り組むことができる授業づくりについて学びます。	1 美術科という科目の基本と学習指導要領について 2 授業づくりで押さえない5つのポイント	40	A B
e15	中学校保健体育科講座～授業構想の工夫～ (「主体的・対話的で深い学びの実現」「教材づくり」「課題づくり」) 愛知教育大学 教授 森 勇示	保健体育科の授業に関する基礎的・基本的な内容について学習し、授業力の向上を図ることをねらいとします。	1 「主体的・対話的で深い学びの実現」 ①これまでの体育 ②「主体的学び」とは ③「深い学び」のための「対話的学び」 2 「教材づくり 課題づくり」 ①運動条件を「足し算・かけ算」する ②課題をつくる ※ e07 と同じ教材になります。	80	A B
e16	中学校家庭科講座～授業構想の工夫～ 愛知教育大学 講師 田代 幸子	中学校家庭科の授業に関する基礎的・基本的な内容について学習し、授業力の向上を図ることをねらいとします。	学習指導要領から学ぶ、これからの家庭科教育 1 家庭科教育の変遷 2 家庭科の授業で大切にしたいこと 3 持続可能な社会を追求する家庭科の授業 ※ e08 と同じ教材になります。	23	A B
e17	中学校外国語(英語)科講座～授業構想の工夫～ (中学校外国語「言語活動」を通じた指導の在り方、及び「話すこと」「書くこと」の力の育成) 愛知県立大学 教授 池田 周	言語活動を通じた中学校「外国語」の指導を実現するために、その充実につながるポイントを整理します。 「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の領域における、言語活動を通じた指導の在り方を考えることをねらいとします。	1 「言語活動」の充実に向けて 2 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標達成に向けた授業改善のPDCAサイクル 3 中学校「外国語」における「話すこと」「書くこと」の資質・能力の育成	38	A B
e18	高等学校国語科講座～授業構想の工夫～ (高等学校国語の授業構想の工夫)	高等学校国語科にかかる基本的な目標設定の仕方や評価規準等について学習し、言語活動を通して育成する資質・能力の評価方法など、授業構想上の知見を広げることをねらいとします。	1 「目指す生徒像」と「年間の学習指導計画」の設定 2 「単元の目標」と「言語活動」の設定 3 「単元の評価規準」と「評価方法」の設定 4 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 5 「振り返り」と「PDCAサイクル」	28	A B

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベ
e19	高等学校地理歴史・公民科講座～授業構想の工夫～ (高等学校地理歴史・公民の授業構想の工夫)	地理歴史科、公民科にかかる基本的な事項及び言語活動を中心とした単元構想の在り方等について学習し、地理歴史科、公民科の「指導と評価の一体化」や「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習活動について理解を深めることをねらいとします。	1 地理歴史科・公民科の学習指導と評価について 2 各科目における実践事例	53	A B
e20	高等学校数学科講座～授業構想の工夫1～ (高等学校数学の授業構想の工夫1)	高等学校数学の授業に関する基礎的・基本的な内容について学習し、授業力の向上を図ることをねらいとします。	1 授業づくりに向けて、授業の計画について 2 授業の実践について 3 授業の評価と改善について	30	A B
e21	高等学校数学科講座～授業構想の工夫2～ (高等学校数学の授業構想の工夫2)	高等学校数学の授業に関する数学的課題と課題学習について学習し、授業力の向上を図ることをねらいとします。	1 「主体的・対話的で深い学び」と数学的活動について 2 パフォーマンス評価について	29	A B
e22	高等学校理科講座～授業構想の工夫～ (高等学校理科の授業構想の工夫)	高等学校学習指導要領理科の趣旨を解説し、そのポイントを授業構想に生かすことができるようにします。特に、理科で育成を目指す資質・能力である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を身に付けるために、「主体的・対話的で深い学び」や探究の過程を意識した授業づくりと評価方法について説明します。	1 高等学校学習指導要領理科の趣旨及びポイントの解説 2 育成を目指す資質・能力を身に付けることを意識した高等学校理科の授業の工夫 3 育成を目指す資質・能力に基づく授業評価	42	A B
e23	高等学校外国語(英語)科講座～授業構想の工夫～ (高等学校英語の授業構想の工夫)	学習指導要領の内容を中心に、高等学校の英語教育に求められていることについて学習するとともに、授業の中心となる言語活動とパフォーマンステストの効果的な実施方法と評価方法について理解を深めます。	1 英語教育に求められていること 2 学習指導要領における目標 3 愛知県の英語教育 4 言語活動について 5 評価について	76	A B
e24	高等学校情報科講座～情報I「プログラミング」～ 愛知教育大学 教授 安本 太一	情報Iの「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」の内容について自主的に学び、授業力の向上を図ります。	「プログラミング」Python のPandasによる量的データの分析 1 Pandasの基本 2 CSV、統計量の意味と算出 3 ネットワークを利用したデータの取得	136	A
e25	高等学校看護科講座～授業構想の工夫～ (高等学校看護科講座～授業構想の工夫～) 椋山女学園大学 准教授 井野 恭子	生徒の看護実践能力を高める教授方法と、震災時の事例から被災者支援の在り方を学ぶことで、専門教科・領域に関する知識・技術を深化・拡充するとともに、授業力の向上を目指します。	災害看護の実際	未定	未定

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベ
e26	生活科講座～基礎・基本から考える～ 中京大学 教授 久野 弘幸	学習指導要領を踏まえ、生活科指導の基礎・基本について理論面、実践面の両面から理解を深めることで、子どもたちに求められる資質・能力を確実に身に付けさせるための指導力を養います。	1 これまでの生活科の流れ 2 生活科の目標と「気付き」 3 生活科の内容の基本構造 4 生活科の評価とその表現	44	A B
e27	小学校英語の基礎講座 (小学校英語の基礎) 愛知教育大学 名誉教授 高橋 美由紀	学習指導要領における小学校での英語教育のポイントを理解し、スモールトークやデジタル教科書を用いた実践、タブレットの効果的な活用などの事例から、指導上の基礎を学びます。	1 学習指導要領における小学校での英語教育のポイント 2 授業実践例 3 評価について	48	A B
e28	理科観察・実験指導基礎講座 (理科観察・実験指導の基礎)	理科の観察・実験における指導法の基礎を習得します。また、観察・実験の授業における工夫、事故防止等の留意点について学びます。	1 観察・実験の心得・指導の基本 2 実験における事故防止 3 薬品の取扱い 4 実験を安全に行わせるための心構え	44	A B
e29	道徳教育講座～考え議論する道徳～ 愛知教育大学 教授 鈴木 健二	児童生徒に生命を大切に心や他人を思いやる心、規範意識等の道徳性を高めるための道徳教育の在り方を理解し、これからの道徳科の授業をより充実したものにすることをねらいとします。	1 考え議論する道徳の授業をつくる 2 子どもの成長を促す評価の基本 3 道徳教育推進教師の役割	88	A B
e30	主権者教育推進講座 神戸大学 准教授 田中 伸	主権者教育を学校で進めていくことの意義と重要性について理解します。主権者教育実践を、小学校、中学校、高等学校の各学校段階において実践例を示します。	1 主権者教育をどのように進めていくか 2 主権者教育の実践－小学校編－ 3 主権者教育の実践－中学校編－ 4 主権者教育の実践－高等学校編－	114	A B
e31	高等学校におけるキャリア教育の進め方講座 愛知教育大学 准教授 石嶺 ちづる	高等学校教員のキャリア教育指導に必要な知識や技術の習得の機会として、キャリア教育の最新動向や、キャリアパスポート等の理解を深めます。自校におけるキャリア教育の充実を図るとともに、教員としての資質を向上させることを目指します。	1 「キャリア教育」とは？ 2 学習指導要領におけるキャリア教育の位置づけ 3 キャリア教育の取り組み方(授業編・連携編) 4 生徒がよりよい人生を切り拓いていくために	未定	A B
e32	総合的な学習の時間講座～探究の扉を開く～ 中京大学 教授 久野 弘幸	学習指導要領を踏まえ、小中学校における「総合的な学習の時間」での探究的な学習についてその意義や特徴の理解を深めることで、子どもたちに求められる資質・能力を確実に身に付けさせるための指導力を養います。	1 総合的な学習は、どこから来たのか？ 2 総合的な学習は、どのように設置され、どのように歩んできたのか？ 3 総合的な学習の実践例から学ぼう 4 学年のテーマや単元のテーマの決め方は？ 5 総合的な学習は、これからどこへ行くのか？	56	A B

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベル
e33	総合的な探究の時間講座 愛知淑徳大学 准教授 加藤 智	学習指導要領の趣旨を踏まえ、高等学校における「総合的な探究の時間」で育成を目指す資質・能力と、その実現に向けた探究的な学びの目的や意義について理解を深め、実践につなげて考える視点を養います。	1 総合的な探究の時間の意義と高等学校における現状・課題 2 育成を目指す資質・能力と探究的な学びの基本的な考え方 3 課題設定・課題の更新を支える指導の在り方 4 多様な探究の在り方と学習者の裁量、教師の指導性 5 探究を中核にしたカリキュラムづくり	未定	未定
e34	「国際英語」教育の理論と実践講座 (国際英語の教育：理論と実践) 大阪大学大学院 教授 日野 信行	国際英語論(EIL)に基づいた「国際英語」教育について理解し、具体的な実践方法を学びます。	1 国際英語の概念 2 「国際英語」教育の原理 3 「国際英語」教育の授業実践例	63	A
e35	Integrating Language & Content in an English Class 上智大学 教授 和泉 伸一	内容言語統合型学習(CLIL)の基本的理論を理解し、具体的な授業展開を学びます。	1 What is CLIL? 2 How can we realize CLIL in our regular English class? ※使用言語：日本語及び英語	63	AB
e36	産業教育における評価の在り方講座 (産業教育における評価の在り方) 名古屋大学大学院 准教授 坂本 将暢	学習指導要領における評価の在り方・考え方を産業教育の視点から学びます。評価のみならず、授業改善のきっかけをつくります。	1 評価の最新情報 2 産業学科における評価の在り方 3 産業学科における評価の実践例	80	AB
e37	産業教育における金融経済教育の進め方講座 (産業教育における金融経済教育の進め方) 椋山女学園大学 准教授 水野 英雄	産業教育における金融経済教育のために、産業と金融・経済の関係や経済学の基礎、SDGsを理解し、産学官連携や高大連携のアクティブ・ラーニングによる授業実践のための知見を得ることをねらいとします。	1 産業教育における金融経済教育の必要性 ①産業教育と金融・経済 ②金融リテラシー、金融ケイバビリティから金融ウェルビーイングへ 2 産業教育における金融経済教育の実践 ①現地現物による学びの重要性 ②産学官連携・高大接続による金融経済教育	45	AB
e38	教育評価の在り方講座 愛知東邦大学 准教授 丹下 悠史	教育評価論からみる評価の在り方について理解を深めることで、自校における評価の充実を図るとともに、教員としての資質向上をねらいとします。	1 本講義のねらいと概要 2 教育評価論から見る評価の役割と課題 ①教育評価の役割と分類 ②教育評価論の近年の展開 3 子どもの豊かな力を捉えるには ①「逆向き設計」で豊かな学力を捉える ②課題と評価基準をどう設定するか	29	AB
e39	オンライン教育の在り方講座 (オンライン教育の効果と課題について) 名古屋大学大学院 准教授 坂本 将暢	オンライン教育の課題を踏まえたICTの効果的な活用について学ぶことで、今後のオンライン教育の可能性に対する理解を深めます。	1 はじめに 2 COVID-19禍の学校の状況 3 オンライン教育の可能性 4 オンライン教育の課題 5 おわりに	96	A

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベ
e40	情報モラル教育講座 金城学院大学 教授 長谷川 元洋	情報モラル・情報セキュリティ教育の必要性を理解し、学校全体で情報モラル教育に取り組むための体制づくりや具体的な指導法について学びます。	1 情報モラル教育においても「資質・能力」の育成を目指す必要がある理由 2 学習指導要領における情報モラル教育の扱いについて 3 学校が組織的に情報モラル教育に取り組むために 4 考える学習活動により、資質・能力を育成する情報モラル教育の事例	未定	A B
e41	教師のための情報危機管理講座 金城学院大学 教授 長谷川 元洋	教員が情報セキュリティの重要性を理解し、安全なICT活用をする知識を得るとともに、オンライン授業等での留意点について学びます。	1 子どものネット環境 2 もとめられる情報モラル・情報セキュリティ 3 学校現場で必要とされる情報モラル・情報セキュリティ 4 オンライン授業等での学校が気を付けるべき配慮	未定	A B
e42	カリキュラム・マネジメント講座 (カリキュラム・マネジメントの推進に向けて) 名古屋大学大学院 教授 柴田 好章	カリキュラム・マネジメントの概要や具体例を知り、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進方法を学びます。	1 カリキュラム・マネジメントが必要とされる背景 2 カリキュラム・マネジメントの在り方 3 カリキュラム・マネジメントを進めるにあたって 4 実践事例(小学校編) 5 実践事例(中学校編) 6 実践事例(高等学校編)	105	A B
e43	効果を上げる授業研究の在り方講座 (効果を上げる授業研究の在り方)	経験に即した体系的な研修の一環として教科指導研修を行うに当たり、授業改善と授業研究に必要な視点を習得し、教科指導力を高めることをねらいとします。	1 授業研究の必要性 2 授業改善の視点 3 授業をデザインする	18	A B
e44	校内研修と授業研究の効果的な進め方講座 (校内研修と授業研究の効果的な進め方) 名古屋大学大学院 教授 柴田 好章	教育の専門職として教師が成長するために、校内研修や授業研究をどのように実施したらよいのかについて学びます。今日の学校教育の課題に対応するために、アクティブラーニングの視点による授業改善、教師の同僚性に基づくOJTの充実や、学校で教員が共に学び合うための組織づくりなどを実現するための工夫について考えを深めることをねらいとします。	1 専門職としての教師の成長を支える研修の意義 2 校内研修における授業研究の役割 3 授業改善とOJTのための授業研究の意義 4 協働的問題解決としての授業研究の方法 5 カリキュラム・マネジメントに生かす授業研究	81	A B
e45	ESD推進講座 (ESDについて) ESD・SDGs推進研究室 室長 手島 利夫	ESD(Education for Sustainable Development)は持続可能な社会を構築するための担い手づくりであり、その視点は学習指導要領にも取り入れられています。この講座では、ESDについて学び、それを学校教育にどのように取り入れるかを考えます。	SDGsの視点に立った特色ある教育課程編成について～学習指導要領の改訂を踏まえて～ 1 ESDの意義 2 学習指導要領に見るSDGsの視点 3 カリキュラム・マネジメントの必要性と実際	65	A B

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベ
e46	科学的リテラシー育成講座 (疑似科学を教育現場に持ち込まないために) 文教大学 教授 長島 雅裕	教育現場に疑似科学が持ち込まれることへの危険性を題材に、学校で理科を学ぶことの意義や科学的思考力について学び、教員の科学的リテラシー向上を図ります。	1 はじめに 2 事例研究 3 疑似科学の教育的影響 4 科学的に考えるために	84	A B
e47	明日から使えるアントレプレナーシップ教育講座 株式会社セルフウィング代表取締役 SELFING VIETNAM 創業者 文部科学省アントレプレナーシップ推進大使 学術博士(早期起業家教育) 平井 由紀子	児童生徒のアントレプレナーシップ育成の重要性を理解し、学校教育の中でどのような取組が可能であるか視野を広げ、実際に授業実践につなげることをねらいとします。	1 アントレプレナーシップについて 2 事例紹介 3 今後のアクション	未定	A
e48	愛知の特別支援教育基礎講座 (愛知の特別支援教育)	特別支援教育の意義、特別支援学級での指導、特別支援教育体制を推進する愛知県の取組を理解することをねらいとします。	1 愛知県における特別支援教育 ①特別支援教育と愛知県の状況 ②第3期愛知県特別支援教育推進計画 2 特別支援学級における教育の実際 ①障害に配慮した支援・指導 ②教育課程 ③就学・進路について	31	A B
e49	発達障害の理解と支援講座 A (発達障害の理解①～基礎的な理解と具体的な支援～) 名古屋葵大学 准教授 堀部 要子	自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害、限局性学習障害の特徴や子どもの様子、発達障害のある子どもたちへの具体的な支援について理解を深めることをねらいとします。	1 発達障害の基礎知識 ①発達障害の定義と用語 ②文部科学省調査の結果等から見られる現況 2 発達障害の理解と支援 ①自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害 ②注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害 ③限局性学習症/限局性学習障害(学習障害) 3 子どもへの支援で大切にしたいこと	36	A B
	発達障害の理解と支援講座 B (発達障害の理解②～発達障害と他の精神的問題とを見分けるために～) 名古屋大学 特任准教授 野邑 健二	発達障害の概念が広がる、発達障害と診断される幼児児童生徒が増えています。発達障害の特性と概念、臨床像、医学的診断に触れつつ、他の精神的問題のある幼児児童生徒との見分け方を理解することをねらいとします。	発達障害の基本的な理解と見分けるべき他の問題について学びます。 1 発達障害の基本 2 見分けることが必要な疾患・問題	20	A B
	発達障害の理解と支援講座 C (行動への支援①～行動をどのようにとらえるか～) 甲南女子大学 准教授 酒井 貴庸	幼児児童生徒の行動面の問題は、特別支援教育に限定されない教育全体における大きな課題の一つです。本講座では、「行動」に関する基礎的な内容について理解することをねらいとします。	行動についての基本的な考え方について学びます。 1 行動の捉え方 2 行動を具体的に記述する 3 行動の機能	未定	A B
	発達障害の理解と支援講座 D (行動への支援②～支援方法を考えるときに重要なこと～) 甲南女子大学 准教授 酒井 貴庸	「C 行動への支援①」講座の内容を踏まえて、「褒めること」の重要性や「罰的な対応」の問題点について理解を深めることをねらいとします。	行動の基本的な考え方を踏まえて、支援方法を考える上での重要なポイントについて学びます。 1 褒めることの重要性 2 行動が起こりやすくなる時 3 罰的な対応の問題点	未定	A B

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベル
e49	発達障害の理解と支援講座 E (感情マネジメント～自分の感情と上手く付き合うための方法～) 鳴門教育大学大学院 教授 小倉 正義	発達障害のある幼児児童生徒は、ストレスに上手に対処することが難しいために、時には感情に振り回されてしまいます。「感情をマネジメントする」ための支援方法を理解することをねらいとします。	感情と上手く付き合うことを支援するための考え方について学びます。 1 気持ちのマネジメントのために 2 気持ちとの付き合い方	63	A B
e50	視覚障害の理解と支援講座 (視覚障害の理解と支援) 愛知教育大学 准教授 相羽 大輔	特別支援学級や通級による指導を受けている子どもの数が増えている現状から、障害の特性等に関する理解と指導方法を工夫する力など、全ての教師に特別支援教育の専門性が求められています。本講座では、視覚障害教育に関する内容について学びます。	1 視覚障害の理解と支援Ⅰ 視覚障害の基礎知識について 2 視覚障害の理解と支援Ⅱ 視覚障害のある子どもの支援について	61	A B
e51	聴覚障害の理解と支援講座 (聴覚障害の理解と支援) 愛知教育大学 教授 大塚 とよみ	特別支援学級や通級による指導を受けている子どもの数が増えている現状から、障害の特性等に関する理解と指導方法を工夫できる力など、全ての教師に特別支援教育の専門性が求められています。本講座では、聴覚障害教育に関する内容について学びます。	1 聴覚障害の理解と支援Ⅰ 聴覚障害の基礎知識について 2 聴覚障害の理解と支援Ⅱ 聴覚障害のある子どもの支援について	65	A
e52	肢体不自由児の理解と支援講座 (肢体不自由児の理解と支援) 愛知教育大学 准教授 森崎 博志	特別支援学級や通級による指導を受けている子どもの数が増えている現状から、障害の特性等に関する理解と指導方法を工夫できる力など、全ての教師に特別支援教育の専門性が求められています。本講座では、肢体不自由教育に関する内容について学びます。	1 肢体不自由児の理解と支援① 障害特性面からの基礎理解と支援の在り方 2 肢体不自由児の理解と支援② 心理面からの基礎理解と支援の在り方	61	A B
e53	病弱児・身体虚弱児の理解と支援講座 桜花学園大学 准教授 小柳津 和博	特別支援学級に在籍する子どもの数が増えている現状から、全ての教師に特別支援教育の専門性が求められています。本講座では、病弱児・身体虚弱児に関する内容について学びます。	1 病弱児・身体虚弱児の基礎理解について 2 病弱児・身体虚弱児の指導・支援について(学習指導の配慮)	未定	未定
e54	知的障害の理解と支援講座 愛知学院大学 特任教授 鈴木 能成	特別支援学級に在籍する子どもの数が増えている現状から、障害の特性等に関する理解と指導方法を工夫する力など、全ての教師に特別支援教育の専門性が求められています。本講座では、知的障害教育に関する内容について学びます。	1 知的障害の基礎理解について 2 知的障害のある子どもの支援について	未定	未定

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベ
e55	特別支援教育における教育課程講座 (特別支援教育における教育課程) 名古屋学芸大学 特任教授 小川 純子	特別支援教育における教育課程への基本的な理解を深めることで、子どもたちへの日々の指導・支援につなげます。	1 特別支援教育における教育課程について 学習指導要領について 教育課程の編成、実施と評価について 2 知的障害教育における教育課程について 教育課程編成の注意点 各教科等を合わせた指導について	55	A B
e56	児童生徒の強みを生かす教育相談講座 (SSWの立場から見た児童生徒の問題解決) 愛知県立大学 教授 山本 理絵	学校に関わる福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーの役割について理解を深め、その視点から児童生徒の強みを生かした問題解決の方法について学びます。	1 スクールソーシャルワーカーとは 2 スクールソーシャルワーカーと連携するために ケース会議の方法 3 ソーシャルワークの視点 その1 4 ソーシャルワークの視点 その2 5 関係機関との連携	64	A B
e57	いじめの組織的な未然防止講座 (いじめの組織的な未然防止に向けて)	いじめに対する予防的な生徒指導に取り組むため、組織的な未然防止の意義を理解し、意識の向上につなげます。また、「いじめの組織的な未然防止に関する研究」の成果である「実態調査」と「校内研修」を提案し、各学校におけるいじめの組織的な未然防止に向けた素材の活用を促します。	0 はじめに～いじめに対する予防的な生徒指導～ 1 いじめの「組織的」な「未然防止」の意義 2 「いじめの組織的な未然防止に関する研究」の目的 3 いじめに対する「実態調査」と「校内研修」の要点 4 実態調査「いじめに対する認識についてのアンケート」 5 校内研修「見立てる力と対応力の向上に役立つ事例ワーク」	45	A B
e58	不登校支援と予防講座 (不登校支援と予防～多様な背景を踏まえた学校での支援と予防～) 愛知教育大学 教授 五十嵐 哲也	不登校の背景課題は多様です。各課題に応じて行うべき支援策を理解するとともに、不登校の未然防止策として学校では何ができるのかを検討することで、不登校への総合的な対応法を身に付けることを目指します。	1 不登校の現状 2 課題に応じた理解と支援 3 休みはじめの段階での支援 4 長期化した段階での支援 5 復帰段階での支援 6 学校のできる不登校予防	67	A
e59	不登校児童生徒のこころの理解と支援講座 跡見学園女子大学 教授 小栗 貴弘	学校臨床心理学の視点から、不登校の子どもたち(学童期・思春期・青年期)のこころの在り様を理解し、実際の支援に生かします。	1 「見守る」と「放置」の違いは？ 2 ゲームやネットとの付き合い方 3 自己肯定感を高めるためには	未定	未定
e60	不登校の子どもたちを支える保護者への支援講座 東京女子体育大学 准教授 田島 真沙美	不登校の子どもたちに関わる支援者(主に保護者)に対する支援の在り方について学びます。	1 なぜ行けない理由を言わないのか？ 2 なぜ「明日は行く！」とはりきっていたのに朝になると行けないのか？ 3 なぜ勉強をやろうとしないのか？ 4 きょうだいで不登校になったとき	未定	未定

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベ
e61	教育相談の心得講座～個別面談に際して～ (教育相談の心得～個別面談に際して～) 臨床心理士・公認心理師 堀 英太郎	学校における児童生徒理解の場面として「個別面談(カウンセリング)」に焦点を当て、そこで役立つ“見立て(アセスメント)”の知識・技能を提供し、児童生徒一人一人に応じた校内連携による指導・援助につなげます。	1 はじめに 2 個別面談(カウンセリング) ・主な形態、姿勢、傾聴 ・話の聴き方・伝え方、転移 3 見立て ・意義とポイント ・不安時の反応や対処法 ・校内連携 4 おわりに	22	A B
e62	組織的な教育相談のための力量向上講座 (組織を生かす教育相談体制づくり)	複雑化・多様化する教育相談上の諸問題に対して、組織で取り組むことの意義を理解し、その意識の向上につなげます。また、「組織的な教育相談における教員の力量向上に関する研究」の成果である「問題解決」の力量向上と「組織づくり」の具体策に提案し、各学校における組織的な教育相談体制づくりの推進を図ります。	1 組織的な教育相談体制づくりの意義 2 「組織的な教育相談における教員の力量向上に関する研究」の目的 3 仮説と方法:「問題解決」の力量向上と「組織づくり」 4 内容:「実践事例ワーク」と「体験研修プログラム」の実践 5 アンケートにみる実践の成果と組織づくりの課題	25	A B
e63	「チーム学校」を生かす教育相談体制づくり講座 (「チーム学校」を生かすケース会議の在り方) 愛知県立大学 教授 山本 理絵	「チーム学校」を生かした組織的な教育相談の在り方を理解し、意識の向上につなげるとともに、ケース会議の手法を学び、実際に事例に対して見立てや対応策を考えることで、「チーム学校」を生かした教育相談体制づくりを目指します。	1 はじめに 2 ケース会議とは 3 ケース会議の実際 4 ケース会議の記録と振り返り 5 まとめ	44	A B
e64	性の多様性の理解推進講座 金沢大学 教授 森 慶恵	全ての人の権利が尊重される社会づくりを目指して、今日的課題である性の多様性、性的マイノリティの現状と課題について理解を深め、学校教育等における配慮、支援、指導に生かせるようにします。	1 性の多様性とは 2 「性的指向と性自認」に関わる国の主な動き 3 子どもが抱える性の多様性の実態 4 支援の最前線に立つ教師に求められる役割 5 子どもが信頼できる大人となるために	29	A B
e65	外国人児童生徒等教育基礎講座～現状と課題～ (外国人児童生徒等教育の現状と課題) 東京外国語大学 准教授 小島 祥美	外国人児童生徒等の増加と多様化の背景や取り巻く環境、愛知県の主な施策について学びます。また、成育環境の把握、多文化多言語の児童生徒の指導を支える理論、特別の教育課程等についても理解を深めます。	1 外国人児童生徒の増加と多様化の背景 2 公立学校における日本語が必要な児童生徒の概況 3 成育環境の丁寧な把握がすべてのはじまり 4 よく聞く、間違いだらけの言説 5 日本語指導による特別の教育課程 6 「指導と評価の一体化」の指導に向けて 7 デジタルも、地域のリソースも、フルに活用しよう	35	A B

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベ
e66	通級による指導・支援の在り方講座 (通級による指導) 愛知教育大学 講師 岩本 佳世	通級による指導を受ける児童生徒数が増加している状況を把握します。また、通級の特別の教育課程、通級形態等、通級による指導に関する基礎的な知識を習得します。	1 通級による指導の実施状況 2 特別の教育課程 3 通級形態(自校通級、他校通級、巡回指導)	63	A B
e67	SDGs理解講座 A (SDGs達成に向けたJICAの取組)	SDGsを理解し、教師が児童生徒とともに教育現場から行動できるきっかけをつくります。	1 SDGsを理解するポイント 2 SDGs達成に向けたJICAの取組	未定	A B
	SDGs理解講座 B (SDGs達成に向けた学校での実践例)	SDGsを理解し、教師が児童生徒とともに教育現場から行動できるきっかけをつくります。	1 参加型手法を用いた学校での実践例 2 SDGs達成に向けて	未定	A B
e68	学校安全推進講座 A (子どもの安全と安心を守る)	子どもの安全と安心を確保するために、学校事故への対応の基礎と学校事故の危機管理及び学校における防災対策と防災教育の実際について理解を深めます。	1 学校事故への対応の基礎と危機管理 ・学校事故への対応の基礎 ・危機管理 2 学校における防災対策と防災教育の実際 ・事例1「3.11を振り返って」 ・事例2「気仙沼市の東日本大震災からの教育復興への道のり」	34	A B
	学校安全推進講座 B (学校における防災管理について) 兵庫県立大学 教授 阪本 真由美	東日本大震災における石巻市立大川小学校の津波被害において、防災に関する学校運営計画の不備が指摘されています。また、南海トラフ地震発生が懸念される中、防災対応能力の向上を目指します。	1 学校管理下における災害による被害 2 防災管理における検討事項 3 実践的な防災教育	33	A B
e69	地域学校協働活動推進講座 (学校と地域の連携・協働に向けて)	「社会に開かれた教育課程」を実現するための有効な手だてである地域学校協働活動、コミュニティ・スクールについて理解を深め、学校運営に生かせるようにします。	1 なぜ学校と地域の連携・協働が必要か 2 コミュニティ・スクールとは 3 地域学校協働活動とは 4 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的促進 5 愛知県内の取組事例 6 学校と地域の連携・協働のメリット・魅力	35	A B
e70	社会人としてのマナー講座 (社会人としてのマナー) 宝石油機工株式会社 取締役 山内 陽子	電話対応や来客対応、挨拶や身だしなみ、コミュニケーションのポイントなど、社会人として身に付けておきたい基本的な社会常識を学びます。	1 社会人としてのマナーとは 2 挨拶の基本・身だしなみについて 3 コミュニケーションについて 4 電話対応について	60	A B

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベ
e71	職場のメンタルヘルス講座 A (職場のメンタルヘルス ~アルコール依存症を知ろう~) 医療法人成精会刈谷病院 院長 垣田 泰宏	学校現場には、さまざまな人間関係の悩みや専門職としての悩み、職務の多忙化等の背景からくるストレス要因があり、教職は仕事関連ストレスのレベルが高い職種とされています。ストレスへの適切な対処と職場不適應の未然防止のためには、心の健康についての知識と理解を深めることが必要です。教職員一人一人が自分自身のアルコールとの付き合い方を見直すとともに、ストレスコントロールを上手に行えることをねらいとします。	1 アルコールについて 2 アルコール依存症で起きる脳の変化 その1 3 アルコール依存症で起きる脳の変化 その2 4 アルコール依存症の特徴 5 アルコール関連問題について 6 お酒を楽しむために	28	AB
	職場のメンタルヘルス講座 B (学校現場の職場ストレスとその対処法) 臨床心理士 久利 恭士	学校現場には、さまざまな人間関係の悩みや専門職としての悩み、職務の多忙化等の背景からくるストレス要因があり、教職は仕事関連ストレスのレベルが高い職種とされています。ストレスへの適切な対処と職場不適應の未然防止のためには、心の健康についての知識と理解を深めることが必要です。ストレスがどのようにして生じるのかについて理解し、ストレスコーピングの観点から自分自身のこれまでの対応を振り返りながら、職場ストレスへの対処法を身に付けることをねらいとします。	ストレスに関する基礎的な内容の理解とストレスに対処する上で有用なワークを含めた対処法について学びます。 1 ストレスのメカニズムについて 2 自分自身について考える 3 職場ストレスへの対処法	30	AB
e72	心が軽くなるコミュニケーション講座 公認心理師(コーチカウンセラー) 西川 智恵	教職員にとって、子ども、保護者、同僚、地域の方々等とのコミュニケーションは日常の教育活動の土台となるものです。よりよいコミュニケーションの在り方や気持ちになる豊かなコミュニケーションの方法を学ぶことで、ストレスを軽減し、職務のやりがいを高めることを目指します。	1 「コミュニケーション」とは 2 信頼関係を築く「積極的傾聴」 3 自分も相手も大切にコミュニケーション	45	AB
e73	G I G Aスクール構想の在り方講座 (G I G Aスクール構想の動向について) 愛知教育大学 准教授 磯部 征尊	G I G Aスクール構想の動向を踏まえ、オンラインコミュニティを利用したICTの効果的な活用について学びます。	1 小学校におけるG I G Aスクール構想の動向 2 中学校におけるG I G Aスクール構想の動向 3 ICTの効果的な活用について	57	A

【V eラーニング研修の実施について】

研修番号	講座名(教材名※) 講師 ※講座名と同一の場合は省略	ねらい	研修内容	学習時間の目安(分)	著作権レベ
e74	OJT推進講座 (OJTの推進について)	日常の業務を遂行する中で、教師としての資質・能力を、意図的・計画的・継続的な視点を持ち高めるためのOJTの考え方や取組について、管理職等の理解を促し、各校における教員育成に生かすことをねらいとします。	1 人材育成とは 2 OJTとは 3 意図的・計画的・継続的視点 4 OJTの研究成果 5 中堅教諭等資質向上研修のOJT	18	AB
e75	学校農園活用講座	学校で栽培する野菜や草花、飼育する小動物や造園・木材加工等について基礎的な知識・技術の習得を目指します。また、それらを教材として活用した効果的な指導方法について理解を深め、指導力の向上を図ります。	1 学校農園について 2 農園管理用機械の基礎知識について 3 農業になるべく頼らない栽培管理について	60	AB
e76	熱中症予防管理講座 (熱中症予防管理講座)	熱中症の症状、現状、予防方法、緊急時の救急処置、学校における熱中症対策の5つに分けて、労働安全衛生の観点も踏まえて学ぶことで、熱中症予防管理に対する理解を深めることをねらいとします。	1 熱中症の症状 2 熱中症の現状 3 熱中症の予防方法 4 緊急時の救急処置 5 学校における熱中症対策まとめ	未定	未定
e77	授業におけるICT活用講座	児童生徒がより主体的・対話的で深い学びへ向かう、学習者中心の学びの実践を通して、効果的な場面でのICT利活用について学びます。	1 はじめに 2 各校種での実践事例	60	AB
e78	生成AIに関する基礎講座 (生成AIとのつき合い方を考えよう) 愛知教育大学 准教授 中池 竜一	文章生成AIの特徴や主な活用方法、使用前の留意点について把握し、校務や授業等において、情報技術を効果的に活用して、新たな情報を再構築する一助とします。	1 生成AIの特徴(ハルシネーション等) 2 生成AIの使い方(アイデア創出、英会話、プログラミング等) 3 生成AIを利用するに当たっての留意点	39	AB
e79	幼児教育と小学校教育の接続に関する講座 (幼児教育と小学校教育の円滑な接続について) 名古屋学芸大学 教授 津金 美智子	5歳児から小学校1年生の2年間の「架け橋期」における基礎知識を知り、遊びを通じた「主体的・対話的で深い学び」を小学校での学びにつなぐ円滑な接続の推進を図ることを目的とします。	1 小学校教育との接続に当たっての留意事項 2 幼保小の協働による架け橋期の教育の充実 3 幼児期の学びの特性 4 主体的・対話的で深い学びとは	80	AB

eラーニングシステム利用要項

(目的)

第1条 この要項は、eラーニング運用管理規程第3条第2項に基づき、eラーニングシステム（以下、「システム」という。）の利用について必要な事項を定めることを目的とする。

(利用目的)

第2条 システムが提供するサービスは、県内の公立幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校（名古屋市立を除く。以下、「学校等」という。）の教職員（事務職員を含む。）並びにその他、管理責任者が認めた者の研修利用を目的とする。

(利用申請)

第3条 所属長は、年度ごとに所属内でシステムを利用してeラーニング研修を受講する者（以下、「利用者」という。）を取りまとめ、当該研修・講座にかかる所定の申し込み手続きを行うことで、システムの利用を申請しなければならない。

2 研修を目的として、学校等、教育事務所及び市町村教育委員会がシステムの利用を希望する場合は、所属長を代表者としてeラーニング研修教材にかかる学校等利用申請書（様式E1）を管理責任者に提出し承認を得なければならない。

(ユーザID及びパスワードの管理)

第4条 発行されたユーザID及びパスワードは、利用者の責任において管理することとし、第三者に譲渡し、または利用させてはならない。

2 発行されたパスワードは、利用者の責任において適宜変更するものとする。

(利用者の責任)

第5条 利用者が、前条に反し、または当該ユーザIDを使用し、生じた責任は、利用者 に帰するものとする。

(パスワードの紛失)

第6条 利用者がパスワードを紛失したときは、所属長の承認を得て、パスワードを初期化する。

(利用時間)

第7条 システムの利用時間は、午前9時から午後5時30分までとする。ただし、管理責任者が必要と認めた場合は、利用時間を変更できるものとする。

(利用者の遵守事項)

第8条 利用者は、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

- (1) 法令、条例、規則、その他の規程及び公序良俗に反する利用をしないこと
- (2) システムの趣旨に反する利用をしないこと
- (3) 第三者を誹謗または中傷しないこと
- (4) 営利を目的とした利用をしないこと
- (5) システムの運用に支障を来す利用をしないこと

附則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附則

この要項は、平成24年4月1日から施行する。

附則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

附則

この要項は、令和7年4月1日から施行する。

VI スキル・アップ研修の詳細について

スキル・アップ研修の各講座は、教科等の専門的な内容を深め、実践的な指導力の向上を図ることを目的として実施します。

- 原則として自由応募制ですが、研修番号59～61の講座は予定人数の一部を地区指定等で募集します。
- 各講座の当日の受付時間は、講座開始30分前からですが、一部の講座では集合時刻が指定されています。
- 予定人数を超える申し込みがある場合は、各学校から代表1名の参加や抽選等で対応します。
- 追加連絡、課題等の詳細については6月下旬以降教員サポートシステム「研修 My Page」及び「学校ページ」で通知します。研修前日まで適宜、通知するため、必ず御確認をお願いします。

問い合わせ先：研修番号55～57の研修 農業教育共同実習所（0566-76-4071）
上記以外の研修 学校支援研修課スキルアップ研修推進G（0564-83-9153）

講座・コース名	54 海洋環境教育講座		
ねらい	実習船「愛知丸」に乗船し、三河湾を周航しながら海洋調査をすることによって、海の環境に関する理解を深め、環境学習の推進者を育成することを目指します。		
対象者	【自由応募】幼稚園等、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教員	予定人数	15人程度
期日・時間・会場	内 容 等		
7月29日（水） 9:30～16:30 ・集合時刻 9:00 会場は別途指示	<p>【見学・実習】 船の施設・設備の見学、海洋観測調査実習、採泥調査、顕微鏡観察によるプランクトンの同定等を行い、海の環境について学びます。</p> <p>【講義・協議・見学：三河湾と伊勢湾の環境と漁業、流域でつながる愛知の環境教育】 講義を通して三河湾と伊勢湾の環境と漁業について理解を深め、環境学習の取組や今後の課題について協議します。</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・課題なし ・実習のできる服装、靴、帽子等を持参してください。 		

講座・コース名	55 安全教育実技講座（小型車両系建設機械運転業務特別教育講習）		
ねらい	小型車両系建設機械の基本操作や基本運転を行い、安全運転に関する知識・技能を高め、安全教育の充実と教科指導力の向上を図ります。		
対象者	【自由応募】高等学校、特別支援学校の産業教育関係学科教員	予定人数	12人
期日・時間・会場	内 容 等		
8月19日（水） 9:15～16:50 ・集合時刻 9:00 農業教育共同実習所	【学科講習】 ブルドーザ、ホイールローダ、ドラグショベルに関する構造や機能、点検・整備・輸送方法、災害事例や関係法令などについて研修します。		
8月20日（木） 9:15～16:50 ・集合時刻 9:00 農業教育共同実習所	【学科講習】 関係法令及び小型車両系建設機械に関する内容について、学科試験を行います。 【実技講習】 ブルドーザ、ホイールローダ、ドラグショベルに関する基本操作や作業運転について、実技講習を行います。		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・課題なし ・研修初日に、テキスト代金1,450円を集金します。 ・昼食及び実習のできる服装、靴、帽子、タオル、水筒を持参してください。 ・紫外線対策として、屋外での実習はサングラス等を着用しての受講を認めます。 ・本講習は労働安全衛生法における安全衛生特別教育として実施し、修了証を交付します。 ・本講座は、3年間のローテーション（〔小型車両系建設機械運転業務特別教育講習（本年度）〕 → 〔フォークリフト運転業務特別教育講習〕 → 〔大型特殊自動車運転免許取得講習〕）で実施します。 		

講座・コース名	56 刈払機安全衛生教育講座		
ねらい	実験・実習、校内緑地管理時における刈払機の安全で効率的な利用の知識・技術等を習得し、安全教育の充実と教科指導力の向上を図ります。		
対象者	【自由応募】幼稚園等、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教員	予定人数	各日10人
期日・時間・会場	内 容 等		
10月9日（金）または 12月1日（火） のうち、指定の1日 9:15～16:45 ・集合時刻 9:00 農業教育共同実習所	<p>【学科講習】 刈払機に関する知識、作業方法、点検及び整備に関する知識の他、振動障害及びその予防に関する知識や関係法令などについて研修します。</p> <p>【実技講習】 刈払機の操作方法、点検及び整備について実技講習を行います。</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・課題なし ・研修初日に、テキスト代金1,500円を集合します。 ・昼食及び実習のできる服装、靴、手袋、帽子、タオル、水筒等を持参してください。 ・紫外線対策として、屋外での実習はサングラス等を着用しての受講を認めます。 ・労働安全衛生法に準ずる安全衛生教育講習を実施し、修了証を交付します。 		

講座・コース名	57 農業技術講座		
ねらい	農業機械をはじめとする先端的・実践的な農業に関する技術を通して、学習指導要領を踏まえた教科「農業」への活用方法や農業の可能性について理解を深め、授業力の向上を図ります。		
対象者	【自由応募】幼稚園等、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教員	予定人数	20人
期日・時間・会場	内 容 等		
8月18日（火） 9:30～12:00 ・集合時刻 9:15 農業教育共同実習所	<p>【講義：先端農業について】 先端農業教育を推進するため、最先端の研究や取組についての実践例を学びます。特にラジコン草刈機の活用やラジコン草刈機的能力についての現状と課題について学びます。</p> <p>【講義・実演：先端農業機械の取り扱いについて】 ラジコン草刈機の操作方法や除草作業の実演から、先端農業教育の教材としての活用方法を学びます。</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・課題なし ・紫外線対策や熱中症対策として、サングラスや帽子、タオル、水筒等を持参してください。 ・実技講習は、屋外で実施します。汚れてもよい靴を持参してください。 ・天候により実演内容を変更することもあります。 ・民間業者による講義・実演を予定しています。 		

講座・コース名	58-A 特別支援教育講座 自立活動セミナー1		
ねらい	自立活動の指導に関する基礎的な知識・技能の習得を図ります（自閉症・情緒障害を主とする）。		
対象者	【自由応募】幼稚園等、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教員	予定人数	70人
期日・時間・会場	内 容 等		
7月31日（金） 9:30～16:30 総合教育センター 大講義室A102 ※午前のみ オンライン（双方向型） 配信あり	<p>午前【講義・協議：自閉症・情緒障害のある幼児児童生徒の理解と支援 ～自立活動の指導の実際～】 自閉症・情緒障害を主とする障害の状態や特性等、実態に即した自立活動の指導の工夫を学び、自立活動の授業づくりについて協議します。</p> <p>午後【講義・協議：自閉症・情緒障害のある幼児児童生徒に対する学習・生活の支援と指導】 自閉症・情緒障害を主とする幼児児童生徒の実態に即した学習・生活の支援と指導について協議します。</p>		
備 考	・課題なし		

講座・コース名	58-B 特別支援教育講座 自立活動セミナー2		
ねらい	自立活動の指導に関する基礎的な知識・技能の習得を図ります（知的障害を主とする）。		
対象者	【自由応募】幼稚園等、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教員	予定人数	70人
期日・時間・会場	内 容 等		
8月4日（火） 9:30～16:30 総合教育センター 大講義室A102 ※午前のみ オンライン（双方向型） 配信あり	<p>午前【講義・協議：知的障害のある幼児児童生徒の理解と支援 ～自立活動の指導の実際～】 知的障害を主とする障害の状態や特性等、実態に即した自立活動の指導の工夫を学び、自立活動の授業づくりについて協議します。</p> <p>午後【講義・協議：知的障害のある幼児児童生徒に対する学習・生活の支援の在り方】 知的障害を主障害とする幼児児童生徒の実態に即した学習・生活の支援の在り方について協議します。</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・課題あり 教材紹介シート（様式は後日連絡） ・当日、授業で使用している自立活動教材で、自作の教材の実物を持参してください。 		

講座・コース名	58-C 特別支援教育講座 自立活動セミナー3		
ねらい	自立活動の指導に関する基礎的な知識・技能の習得を図ります（肢体不自由を主とする）。		
対象者	【自由応募】幼稚園等、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教員	予定人数	40人
期日・時間・会場	内 容 等		
7月24日（金） 9:30～16:30 総合教育センター 講義室B301	<p>【講義：肢体不自由のある幼児児童生徒のリハビリテーション ～医療と教育の連携を踏まえて～】 リハビリテーションにおける理論と技法について、また、学校と外部機関の連携を強化していく重要性について学びます。</p> <p>【講義・協議：肢体不自由のある幼児児童生徒の理解と支援 ～自立活動の指導の実際～】 肢体不自由を主とする障害の状態や特性等、実態に即した自立活動の指導の工夫を学び、自立活動の授業づくりについて協議します。</p>		
備 考	・課題なし		


講座・コース名	58-D 特別支援教育講座 インクルーシブ教育システム推進セミナー		
ねらい	全ての幼児児童生徒が安心して学びに参加できる授業づくりに向けて、インクルーシブ教育システムの理念や具体的な実践例を学び、知識・技能の習得を図ります。		
対象者	【自由応募】幼稚園等、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教員	予定人数	70人
期日・時間・会場	内 容 等		
8月17日（月） 9:30～16:30 総合教育センター 大講義室A102 ※午前・午後 オンライン（双方向型） 配信あり	<p>午前【講義・協議：インクルーシブ教育システムの理解】 インクルーシブ教育システムに関する基礎的な知識を学びます。</p> <p>午後【講義・演習：学習に困難さのある子どもへの支援・指導 ～通常の学級でできること～】 読み書きなどに困難のある子どもへの指導について、通常の学級でできる具体的な実践例を学びます。</p>		
備 考	・課題なし		

講座・コース名	58-E 特別支援教育講座 ICT活用セミナー		
ねらい	特別支援教育におけるICT機器の効果的な活用に向けて、基礎的な知識や技能の習得を図ります。		
対象者	【自由応募】幼稚園等、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教員	予定人数	30人
期日・時間・会場	内 容 等		
7月27日(月) 9:30~16:30 総合教育センター 情報実習室C103 ※午前のみ オンライン(双方向型) 配信あり	<p>午前【講義：特別支援教育におけるICT機器の効果的な活用】 特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の支援に必要なICT機器の効果的な活用等について学びます。</p> <p>午後【演習：ICT機器の活用の基礎(タブレット端末の活用含む)】 ICT機器を活用した具体的な支援・指導の工夫等について学びます。</p>		
備 考	・課題なし		

講座・コース名	59 児童生徒理解に基づく組織的な教育支援に向けた教育相談講座 eL		
ねらい	学校教育相談を中心となって担当する上で必要な理論・技法及び姿勢を学び、組織的な教育活動に生かすことができる力量を養います。		
対象者 地区指定	【指定】高等学校の教員 【自由応募】小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教員 ※生徒指導・教育相談の基本的な理論や技法をもち、学校内外の連携の中核を担う者	予定人数	40人
期日・時間・会場	内 容 等		
7月24日(金) 9:30~16:30 総合教育センター 講義室B302	<p>【実習：人間関係づくり】 葛藤場面の調整や合意形成の技法を体験し、協働を促すファシリテーションの実践力を高めます。</p> <p>【実習：短時間ケース会議の実践】 限られた時間で事案の要点を整理し、課題解決に向けた対応策を検討するケース会議の進行手順を実践的に学びます。</p> <p>【演習：組織的な教育支援の現状と課題に基づくアクションプラン】 生徒指導提要のねらいに基づき、所属における組織的な教育支援の現状と課題を整理し、具体的なアクションプランを検討します。</p>		
11月10日(火) 9:30~16:30 総合教育センター 講義室B302	<p>【実習：人間関係づくり】 児童生徒の人間関係づくりを促す指導・援助に必要な知識・技能を体験的に学びます。</p> <p>【実習：スクールソーシャルワークの視点を取り入れた事例検討】 スクールソーシャルワークの視点を取り入れた事例検討を体験し、校内・外部連携におけるファシリテーション・コーディネーション技法を学びます。</p> <p>【演習：アクションプランの進捗と今後の展望】 自らのアクションプランの取組状況を振り返り、新たな課題と成功要因を整理し、継続的に改善するための今後の方策を検討します。</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・課題あり：「学校教育相談の現状と課題（協議メモ）」（様式は後日連絡） ・本講座は、令和7年度実施の「学級・学年づくりに生かす教育相談講座」「今日的課題に対応する教育相談講座」「教育相談コーディネーター養成講座」を統合したものです。 ・本講座は、その一部を「eラーニング研修」によって実施します。 <p>※eラーニング研修の概要は、本案内pp.26-45を御覧ください。</p>		

講座・コース名	60-A 特別支援学校におけるセンター的機能強化講座 ベーシック		
ねらい	特別支援学校におけるセンター的機能に関する基礎的な知識及び技能を習得し、地域の中で特別支援教育を推進するための基礎的な資質や能力を向上させます。		
対象者 地区指定	【指定】特別支援学校の教員	予定人数	30人
期日・時間・会場	内 容 等		
5月27日(水) 9:30~12:40 各所属校 オンライン開催	<p>【講義：特別支援教育に関する相談支援機能① ～地域におけるセンター的機能の役割～】 地域支援に必要な教育相談の基礎的な知識を学びます。</p> <p>【講義：発達障害の理解と支援①～発達障害に関する基礎的理解～】 発達障害についての基礎的な理解と対応、学校のニーズについて学びます。</p>		
8月25日(火) 9:30~16:30 総合教育センター 情報実習室C103	<p>【講義：発達障害の理解と支援②～アセスメントから支援につなげる～】 発達障害児支援におけるアセスメントの意義や、基礎的な方法について学びます。</p> <p>【演習：発達障害の理解と支援③～仮想事例から支援を検討する～】 仮想事例を基にグループ協議を行い、アセスメントからの具体的な支援を考えます。</p> <p>【協議：特別支援学校におけるセンター的機能の実際① ～各校における実施状況と課題～】 巡回指導等、各校の地域支援の現状と課題の報告を基にグループ協議を行い、センター的機能の役割についての基礎的な理解を深めます。</p>		
備 考	・課題なし		

講座・コース名	60-B 特別支援学校におけるセンター的機能強化講座 アドバンス		
ねらい 地区指定	特別支援学校におけるセンター的機能に関する発展的な知識及び技能を習得し、地域の中で特別支援教育を推進するためのより専門的な資質や能力を向上させます。		
対象者	【指定】特別支援学校の教員	予定人数	30人
期日・時間・会場	内 容 等		
1月15日(金) 9:30~16:30 総合教育センター 情報実習室C103	<p>【講義：特別支援教育に関する相談支援機能②～教育相談の意義と実際～】 教育相談に必要な心理面の捉え方等、より実践的な知識を学びます。</p> <p>【講義：発達障害の理解と支援④～保護者や学校との連携～】 地域支援を進める上で大切になる保護者や学校との連携について、知識や心構えについて学びます。</p> <p>【協議：特別支援学校におけるセンター的機能の実際② ～ケース検討を通して支援体制構築について考える～】 各校の相談事例を基にグループ協議を行い、センター的機能における支援体制構築についての理解を深めます。</p>		
備 考	・課題あり 詳細は事前に連絡します。		

講座・コース名	61 あいちクラスルーム・エバンジェリスト（ACE）養成研修 		
ねらい 地区指定	日本マイクロソフト株式会社のサポートを受けながら、各学校に整備されたICT環境を利用して、ICTを効果的に活用した授業を実践する力を身に付け、基礎から応用までのICTスキルを広く県内の教員に普及・指導できる教員を養成します。		
対象者	【指定】高等学校の教員 【自由応募】高等学校、特別支援学校の教員	予定人数	30人
期日・時間・会場	内 容 等		
7月24日（金） 13:30～16:30 各所属校 オンライン開催	<p>【講義：働き方改革・教え方改革・学び方改革概論】 ICT環境とこれからの世界を想像し、意識改革の概論を理解します。</p> <p>【講義：ACEとしてできること】 具体的な実践事例や研修の様子を知ること、ACEの認識を深めます。</p> <p>【協議：ICT環境に関する情報共有】 各学校のICT環境について情報共有をし、講義で得た知見等を基に解決策や実践計画を考察します。</p>		
10月9日（金） 14:00～16:10 各所属校 オンライン開催	<p>【協議：グループワークのテーマに関する中間報告・情報共有】 グループワークの内容を発表し、情報共有を行います。</p>		
12月24日（木） 13:30～16:30 各所属校 オンライン開催	<p>【協議：グループワークのテーマに関する最終報告・情報共有】 グループワークの内容を発表し、情報共有を行います。また、ACEとしてどのように普及・啓発できるか協議し、その対応策を考察します。</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・課題なし ・一定の条件を満たした参加者には、ACEの認定をします。 ・本講座は、その一部を「eラーニング研修」によって実施します。 <p>※eラーニング研修の概要は、本案内pp.26-45を御覧ください。</p>		

講座・コース名	62 1人1台端末を活用した授業づくり講座		
ねらい	個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、児童生徒の学校生活や授業における学びをより充実させるために、教職員が円滑にICTを活用した教育を実践できることを目指します。		
対象者	【自由応募】小学校、中学校、義務教育学校の教員	予定人数	40人
期日・時間・会場	内 容 等		
8月27日(木) 13:00~16:30 愛知教育大学 第1共通棟3F 303号室	<p>【講義：個別最適な学びと協働的な学びにつながる1人1台端末を活用した授業づくり】 個別最適な学びと協働的な学びを実現するために必要な視点について理解を深めます。</p> <p>【ワークショップ：1人1台端末を活用した授業づくりと発表】 ワークショップを通して、個別最適な学びと協働的な学びを実現するための授業づくりについて理解を深めます。</p>		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・課題なし ・研修で1人1台端末を活用した授業案を考えます。実践したい教科の教科書または指導書等を持参してください。 		

(様式5)

小・中・義務教育学校→市町村教委→教育事務所→総合教育センター

令和8年度
教育研究リーダー養成研修(小・中・義務教育学校)
参加者推薦書

令和 年 月 日

愛知県総合教育センター所長 殿

学校名

校長名

学校電話番号 () -

学校代表アドレス

下記の者を推薦します。

記

職名		フリガナ	経験年数 (R8.3.31 現在)	年
		氏名		
担当学年		担当教科 (中学校教諭)	主な 校務分掌	
研究領域	(例:教科指導(国語)、生徒指導、キャリア教育等)			
研究主題				
推薦理由				

上記の者を推薦します。

_____教育委員会教育長

[記入上の注意]

- 1 研究領域で「教科指導」を選んだ場合は、「教科指導(国語)」のように()内に教科名を必ず記入する。
- 2 研究主題は、令和8年度に研究を予定し、各学校で実践できる内容を記入する。
- 3 教職経験6年以上の者を対象とする。ただし、法定研修「中堅教諭等資質向上研修」の対象者を除く。

(様式6)

学校番号()

令和8年度 教育研究リーダー養成研修 (県立学校)

参加者推薦書

令和 年 月 日

愛知県総合教育センター所長 殿

学校名

校長名

学校電話番号 () -

下記の者を推薦します。

記

職 名	フリガナ		経験年数 (R8.3.31 現在)	年
	氏 名			
担当学年	担当教科・科目		主な 校務分掌	
研究領域	(例：教科指導 (国語)、生徒指導、キャリア教育 等)			
研究主題				
推薦理由				

〔記入上の注意〕

- 1 研究領域で「教科指導」を選んだ場合は、「教科指導 (国語)」のように () 内に教科名を必ず記入する。
- 2 研究主題は、令和8年度に研究を予定し、各学校で実践できる内容を記入する。
- 3 教職経験6年以上の者を対象とする。ただし、法定研修「中堅教諭等資質向上研修」の対象者を除く。

〔推薦書の提出期限〕

令和8年4月15日 (水) までにメール (必着) で提出してください。

(様式7)

欠 席 ・ 遅 刻 ・ 早 退※ 届

令和 年 月 日

愛知県総合教育センター所長 殿

学校（園）名

校長（園長）名

下記により（欠席・遅刻・早退※）します。

記

研修・講座・コース名	
職・氏名	
実施日	令和 年 月 日（ ）
欠席・遅刻・早退※ 理由	

※ 該当する項目以外を削除する。

[提出方法]

- メールまたは郵送で提出する。
 - ・校種によって提出先が異なるため、提出先の詳細は研修事業案内のp.4（総合教育センターウェブページからダウンロード可）を参照する。
 - ・総合教育センターに直接送付する校種（県立学校、私立幼稚園等、国立）についてメールの場合、それぞれの所属（代表）アドレスから下記アドレスに提出する。郵送の場合、郵送先は「学校支援研修課スキルアップ研修推進G」とする。

<研修事業案内p.4 直接送付する校種からの送付先>

メール送信先アドレス	sogokyoiku-c@pref.aichi.lg.jp
ファイル名及び送信メールの件名	○○研修△月△日××届

(様式E1)

eラーニング研修教材にかかる学校等利用申請書

令和 年 月 日

愛知県総合教育センター所長 殿

学校（園）名

校長（園長）名

下記のとおりeラーニング研修教材の利用を申請します。

記

教材名			
利用目的			
研修の全体計画における利用教材の位置付け			
利用日時	令和 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分		
利用者		利用人数	人
担当者職氏名		連絡先電話	() -

〔記入上の注意〕

- 1 本申請により校内研修等で利用することができる教材は、著作権レベルが「A B」のものに限ります。詳細については、研修事業案内p.26「3 著作権レベルと教材の二次利用」を御覧ください。
- 2 利用目的は、研修会等の名称を記入してください（「校内現職研修会」等）。なお、教材を研修以外の目的で利用することはできません。
- 3 研修会等の全体計画の中で、教材の視聴（学習）がどのような位置付けにあるかを具体的に記入してください。
- 4 利用日時は、研修会等の開始時刻から終了時刻までを記入してください。なお、申請後、日時が変更になった場合は、その旨を総務企画課企画情報推進室まで御連絡ください。
- 5 利用者は、申請者の所属教職員に限ります。「本校全職員」「本校教務部教員」「本校数学科教員」などと対象者を具体的に記入してください。
- 6 利用人数は、教材を視聴（学習）する人数について、計画段階での予定人数を記入してください。

〔申請書の提出期限〕

この申請書は、研修実施年度の1月末日まで（ただし、利用日の2週間前まで）に提出してください。

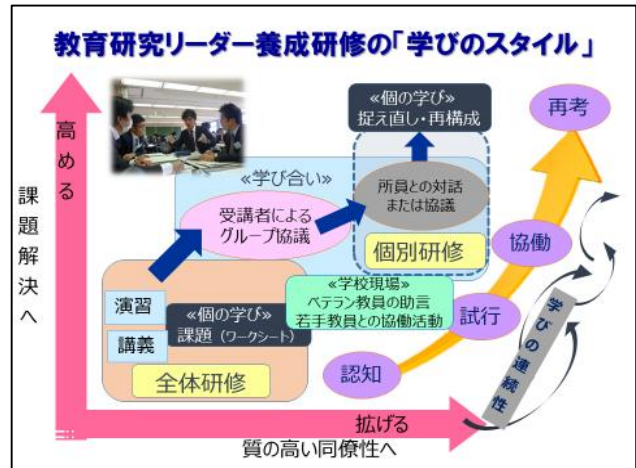
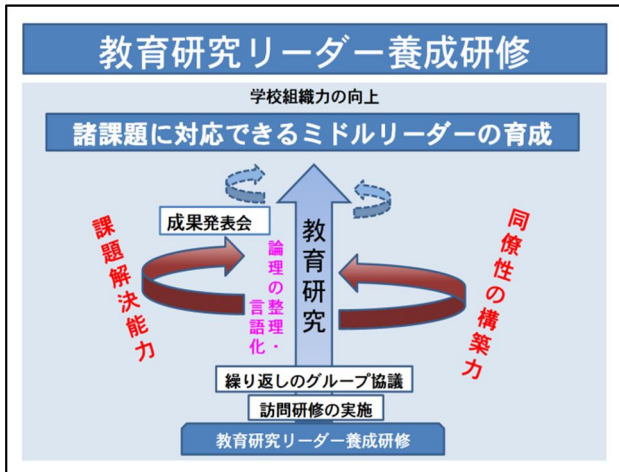
メール送信先アドレス	sogokyoiku-c@pref.aichi.lg.jp
ファイル名及び送信メールの件名	◎◎立〇〇学校「様式E1」

【参考資料1】教育研究リーダー養成研修の概要

1 目的

理論的・実践的な教育研究を通して、「課題解決能力」と「同僚性の構築力」を身に付けたミドルリーダー育成を目指します。

2 概念図



3 応募条件

- ・現在または今後、学校運営上で、特に教育研究におけるミドルリーダーとしての役割を担う者
- ・市町村立学校教員については、校長、市町村教育委員会教育長及び教育事務所長の推薦を受けた者
- ・県立学校教員については、校長の推薦を受けた者
- ・教職経験6年以上の者を対象とする。ただし、法定研修「中堅教諭等資質向上研修」の対象者を除く

4 研修の流れ

時期	内容	概要
5月15日(金)	開講式 オリエンテーション	指導所員と面談し、研修の方向性について確認します。
6～7月	訪問研修	指導所員が所属校を訪問し、受講者が所属校の協力体制を得て「課題解決能力」「同僚性の構築力」を身に付けることができるよう依頼します。受講者は、研究テーマに沿った授業等を行い、その後、指導所員と協議を行います。 ※訪問研修日：所属校と指導所員で日程調整を行います。
夏季休業中	全体研修(3日)	指定日(3日)にセンターに来所し、講義を受講し、演習や他の受講者とのグループ協議を行います。 ※指定日(予定)：7/23・8/3・8/17
7～12月	個別研修(3日)	任意日(3日)にセンターに来所し、指導所員との協議を基に、研修を進めます。 ※任意日：指導所員と日程調整を行います。
9～11月	訪問研修	指導所員が所属校を訪問します。受講者は、研究テーマに沿った授業等を行い、その後、指導所員と協議を行います。 ※訪問研修日：所属校と指導所員で日程調整を行います。
2月12日(金)	成果発表会 閉講式	研究報告と研修成果を発表します。

○上記研修を通して、校内や地域において教育研究を推進するリーダーとしての資質・能力の向上を図ります。各自で研究テーマを掲げて実践し、報告書としてまとめます。成果発表会では、研究報告と研修成果について発表します。

○過年度の研究成果概要については、総合教育センターウェブページに掲載されています。

【参考資料2】幼稚園等中堅教諭資質向上研修にかかる在職期間の例

「在職期間〇年」とは、幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園において、教諭、保育教諭としての実質の勤務期間が〇年を満たした場合をいう。以下の場合等の計算方法に留意する。
 出産休暇（産休）、部分休業、育児短時間勤務は、勤務期間とみなし、除算の対象期間としない。
 育児休業（育休）、療養休暇（療休）、休職は、勤務期間とみなさない。12か月以上の育休、休職のそれぞれ又は育休、療休、休職の2つ以上の期間が連続する場合は、年度のまたがりの有無に関わらず12か月を1年として除算し、在職期間より減ずる。

令和8年度受講対象者 H31.4.1（7年経験者）採用

年数	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	令和8年4月1日時点で実質の勤務期間が7年を経過している者。
								○								

A教諭 H30.4.1採用

年数	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	令和8年4月1日時点で実質の勤務期間7年（8年マイナ1年）と数える。令和8年度の受講予定者となる。
			産休	育休					○							
産休を4か月と育休を22か月取った場合				産休は勤務期間とみなす。令和2年度は産休と12か月に満たない育休のため勤務（12か月に満たない端数は数えない）。育休の22か月のうち12か月（1年）を除算する。												

B教諭 H30.4.1採用

年数	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	令和8年4月1日時点で実質の勤務期間6年（8年マイナ2年）と数える。令和9年度の受講予定者となる。
			産休	育休	産休	育休				○						
産休4か月・育休22か月を取り、引き続き産休4か月・育休22か月を取った場合				1回目の育休のうち12か月（1年）と2回目の育休のうち12か月（1年）の計2年を除算する。12か月に満たない端数は数えない。 ※2回の育休は連続しないので別々に計算する。												

C教諭 H30.4.1採用

年数	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	令和8年4月1日時点で実質の勤務期間7年（8年マイナ1年）と数える。令和8年度の受講予定者となる。
					休職		療休	休職	○							
休職1回目に10か月を、2回目に療休3か月に引き続き9か月を取った場合				1回目の休職は12か月未満なので、除算しない。2回目は療休と休職が連続し、合わせて12か月となるので、1年を除算する。												

D教諭 H31.4.1採用

年数	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	令和8年4月1日時点で実質の勤務期間7年と数える。令和8年度の受講予定者となる。
			休職				休職	○								
休職1回目に8か月、2回目に9か月、3回目に8か月を取った場合				休職の期間がいずれも12か月未満なので、除算しない。												

E教諭 R7.4.1採用

年数	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	令和8年4月1日時点で実質の勤務期間6年と数える。令和9年度の受講予定者となる。
	勤他務県	勤他務県	勤他務県	勤他務県	勤他務県		講師			○						
他府県または私立の幼稚園及び認定こども園（保育所型を除く）で採用され、5年で退職。その後臨時職員を1年経験し、愛知県で改めて幼稚園及び認定こども園に採用された場合				他府県や私立での在職期間と、本県での在職期間を合わせて数える。期限付任用、臨時的任用、任期付任用、非常勤講師は在職期間から除算する。												

F教諭 H25.4.1採用

年数	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	令和8年4月1日時点で実質の勤務期間7年（13年マイナ6年）と数える。令和8年度の受講予定者となる。
	勤他務所	勤他務所	勤他務所	産休		育休	産休	育休						○		
保育所勤務を3年間、1回目に産休4か月・育休30か月、2回目に産休4か月育休1年を取った場合				保育所勤務の3年間は除算。1回目の育休30か月のうち24か月（2年）を除算、2回目の育休（12か月）1年を除算。令和7年4月1日で7年を経過し、令和7年度受講対象者となる。												

【参考資料3】中堅教諭等資質向上研修【前期】に係る在職期間の例

「在職期間5年」とは、実質の勤務期間が5年を満了した場合をいう。以下の場合等の計算方法に留意する。

出産休暇（産休）、部分休業、育児短時間勤務は、勤務期間とみなし、除算の対象期間としない。

育児休業（育休）、療養休暇（療休）、休職は、勤務期間とみなさない。12か月以上の育休、休職のそれぞれ又は育休、療休、休職の2つ以上の期間が連続する場合は、年度のまたがりの有無に関わらず12か月を1年として除算し、在職期間より減ずる。

※例えば、休職等期間が連続32か月の場合、 $32（連続休職等期間）\div 12（1年）= 2年8か月$ となり在職期間を2年減ずることとなる。

例1 R3. 4. 1 愛知県採用

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
						○				

令和8年度受講予定者

令和3年4月1日に採用された場合 令和8年4月1日で、在職期間は5年を経過する。

例2 R3. 4. 1 愛知県採用

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
		産休	育休				○			

在職期間4年となり
令和9年度受講予定者

産休を4か月と育休を22か月取った場合
産休は勤務期間とみなし、除算の対象としない。
育休の22か月のうち、1年を減ずる。
※ $22\div 12=1年10か月$

例3 R3. 4. 1 愛知県採用

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
		休職			休職	○				

令和8年度受講予定者

1回目に8か月、2回目に9か月休職となった場合
休職の期間がいずれも12か月未満で連続していないため、除算の対象としない。

例4 H31. 4. 1 他府県採用 R5. 4. 1 愛知県採用

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
			講師	講師				○				

令和8年度受講予定者

他府県または私立で採用され、2年で退職。その後講師を2年経験し、本県に採用された場合
他府県や私立での在職期間が2年あるため、本県での在職期間に加算する。ただし、期限付任用、臨時的任用、任期付任用、非常勤講師の場合は、加算の対象としない。

【参考資料4】中堅教諭等資質向上研修【後期】に係る在職期間の例

「在職期間10年(9年)」とは、実質の勤務期間が10年(9年)を満たした場合をいう。以下の場合等の計算方法に留意する。

出産休暇(産休)、部分休業、育児短時間勤務は、勤務期間とみなし、除算の対象期間としない。

育児休業(育休)、療養休暇(療休)、休職は、勤務期間とみなさない。12か月以上の育休、休職のそれぞれ又は育休、療休、休職の2つ以上の期間が連続する場合は、年度のまたがりの有無に関わらず12か月を1年として除算し、在職期間より減ずる。

※例えば、休職等期間が連続32か月の場合、 $32(連続休職等期間) \div 12(1年) = 2年8か月$ となり在職期間を2年減ずることとなる。

A教諭 H28.4.1愛知県採用

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
パターン(1)											○				
	令和8年度受講予定者														
パターン(2)											弾力①	弾力②			
	学校の実情や本人の希望で、弾力化が可能。														
パターン(3)												○			
	学校の実情や本人の希望で、1年延期が可能。														
	平成28年4月1日に採用された場合										令和8年4月1日で、在職期間は10年を経過する。				

B教諭 H28.4.1愛知県採用

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
			産休	育休	産休	育休								●	○
	在職期間6年となり令和12年度受講予定者 ※●は弾力化希望可能年度														
	産休4か月・育休32か月を取り、引き続き産休4か月・育休32か月を取った場合										1回目の育休と2回目の育休をそれぞれ除算対象とする。※2回の育休は連続しないので別々に除算する。 $32 \div 12 = 2年8か月$ が2回となり、4年を減ずる。				

C教諭 H28.4.1愛知県採用

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
					休職			療休	休職		●	○			
	在職期間9年となり令和9年度受講予定者 ※●は弾力化希望可能年度														
	休職1回目に10か月を、2回目に療休3か月に引き続き休職9か月を取った場合										1回目の休職は12か月未満なので、除算の対象としない。2回目は療休と休職が連続し、合計12か月となるので、除算の対象とする。※ $12 \div 12 = 1年$ となり、1年を減ずる。				

D教諭 H28.4.1他府県採用 R4.4.1愛知県採用

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
					講師	講師						●	○		
	在職期間8年となり令和10年度受講予定者 ※●は弾力化希望可能年度														
	他府県または私立で採用され、4年で退職。その後講師を2年経験し、本県に採用された場合										他府県や私立での在職期間が4年あるため、本県での在職期間に加算する。ただし、期限付任用、臨時的任用、任期付任用、非常勤講師の場合は、加算の対象としない。				

E教諭 H25.4.1愛知県採用

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
							前期受講	産休	育休					弾力①	弾力②
	在職期間11年となるが、フルタイムで復帰後なので、弾力化での受講も可能。(令和8年度に通常でも可)														
	産休4か月・育休32か月を取り、令和4年度途中から部分休業にて復帰。【後期】の受講は延期していたが、令和8年度からフルタイム勤務。										育休は除算対象とし、2年を減ずる。				

F教諭 H25.4.1愛知県採用

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
			産休	育休	産休	育休						前期受講		弾力①	弾力②
	【前期】【後期】の受講年は1年間空ける。【後期】は、MとSに分割して受講も可能。(令和8年度に通常でも可)														
	産休4か月・育休32か月を取り、引き続き産休4か月・育休20か月を取り、令和6年度にフルタイム復帰し、前期受講の場合										1回目の育休と2回目の育休をそれぞれ除算対象とし、3年を減ずる。				

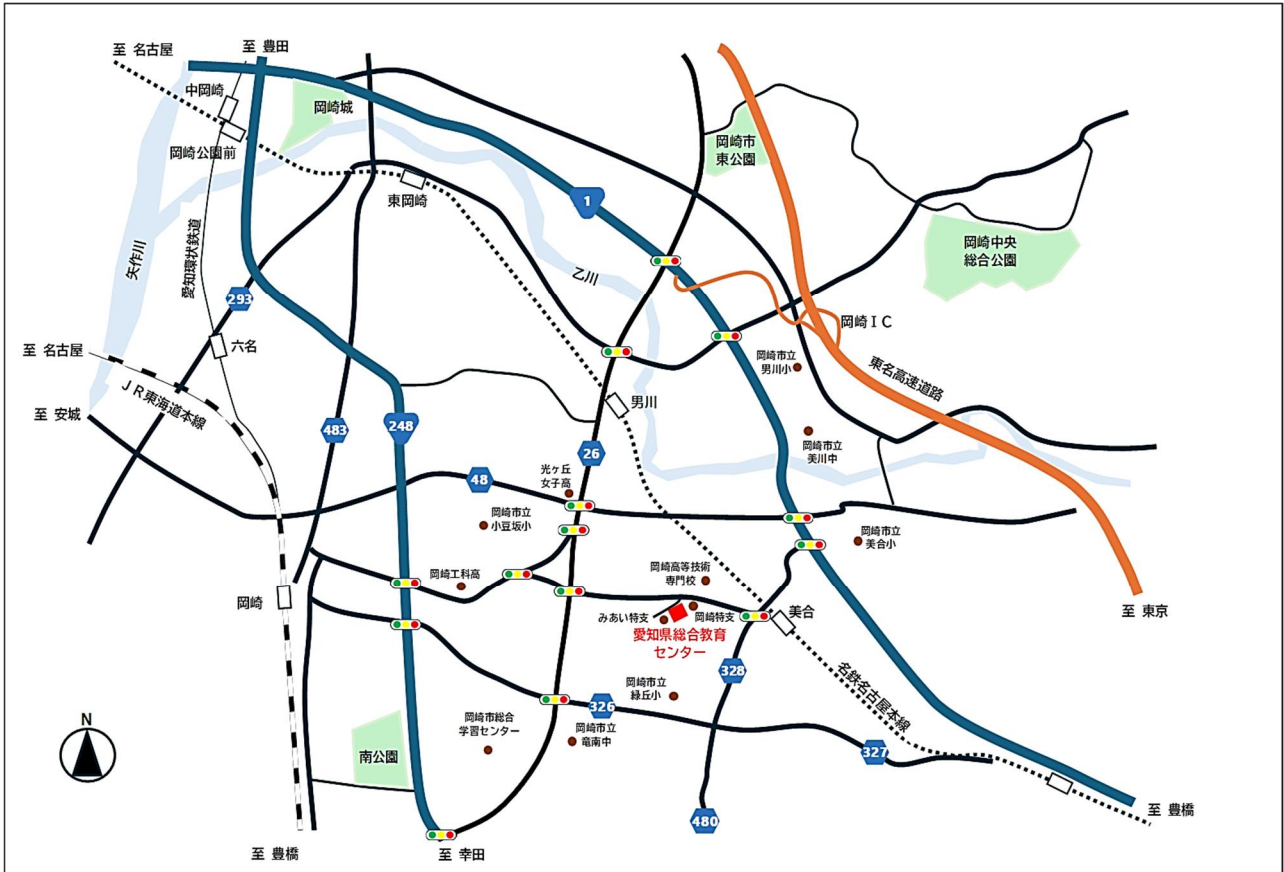
★ 愛知県総合教育センターへの交通アクセス ★

＜交通案内＞

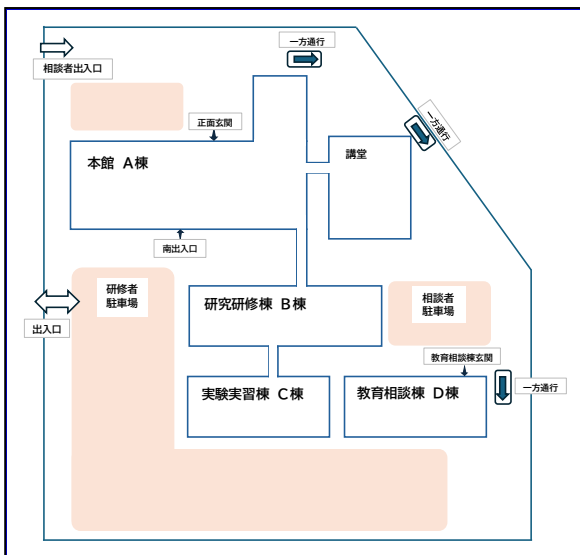
※できる限り公共交通機関を御利用ください。周辺道路はかなり混雑します。

- ・名鉄美合駅下車 徒歩で約15分
- ・JR岡崎駅下車 名鉄バスで「美合入込」下車 徒歩で5分
→ 名鉄バス「名鉄東岡崎駅（庄司田・緑丘・美合駅経由）行き」
「市民病院（庄司田・緑丘・美合駅経由）行き」
- ・東名高速道路岡崎インターチェンジから車で約10分

＜周辺案内図＞



＜建物図＞



愛知県総合教育センター

〒444-0802 愛知県岡崎市美合町字並松1番80
電話 (0564) 83-9130 (代表)
電話 (0564) 83-9153 (スキルアップ研修推進G)
電話 (0564) 83-9154 (キャリアアップ研修推進G)
メールアドレス sogokyoiku-c@pref.aichi.lg.jp
ウェブページ <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/sogokyoiku-c/>

愛知県総合教育センター農業教育共同実習所

〒446-0066 愛知県安城市池浦町丸田172番1
電話 (0566) 76-4071
メールアドレス sogokyoiku-nogyo@pref.aichi.lg.jp
ウェブページ <https://www.pref.aichi.jp/site/noukyo/>